

3. 投資信託保有状況(全体・現在保有者)

(1) 投資信託の保有状況(全体)

投資信託の保有状況を見ると、「現在持っている」は11.1%である。「以前持っていたが、現在は持っていない」は4.2%で、「これまで持ったことがない」が78.4%と大半を占める。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では保有状況に大きな差はみられない。年代別でみると、「現在持っている」率は年代が上がるにつれて高まり、60代以上では20%前後と高い。年収別でみると、1000万円以上の層では「現在持っている」が24.4%を占め、800万円以上1000万円未満の層では「以前持っていたが、現在は持っていない」が13.8%と高い。

【投資信託の保有状況(単数回答)／時系列－全体ベース】

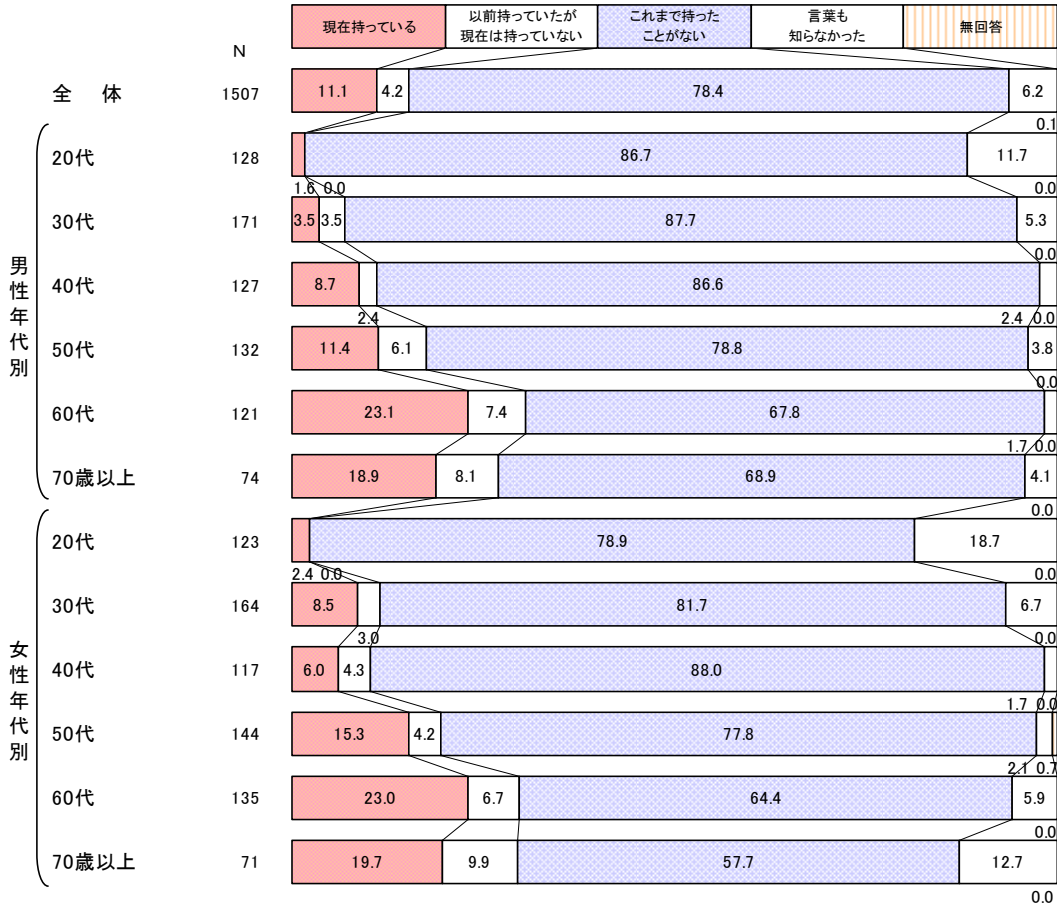
	N	現在持っている	以前持っていたが 現在は持っていない	これまで持った ことがない	言葉も 知らなかった	無回答
平成20年	1507	11.1	4.2	78.4		6.2
平成19年	1517	10.1	5.1	80.4		4.3

【投資信託の保有状況(単数回答)／対象者属性別－全体ベース】

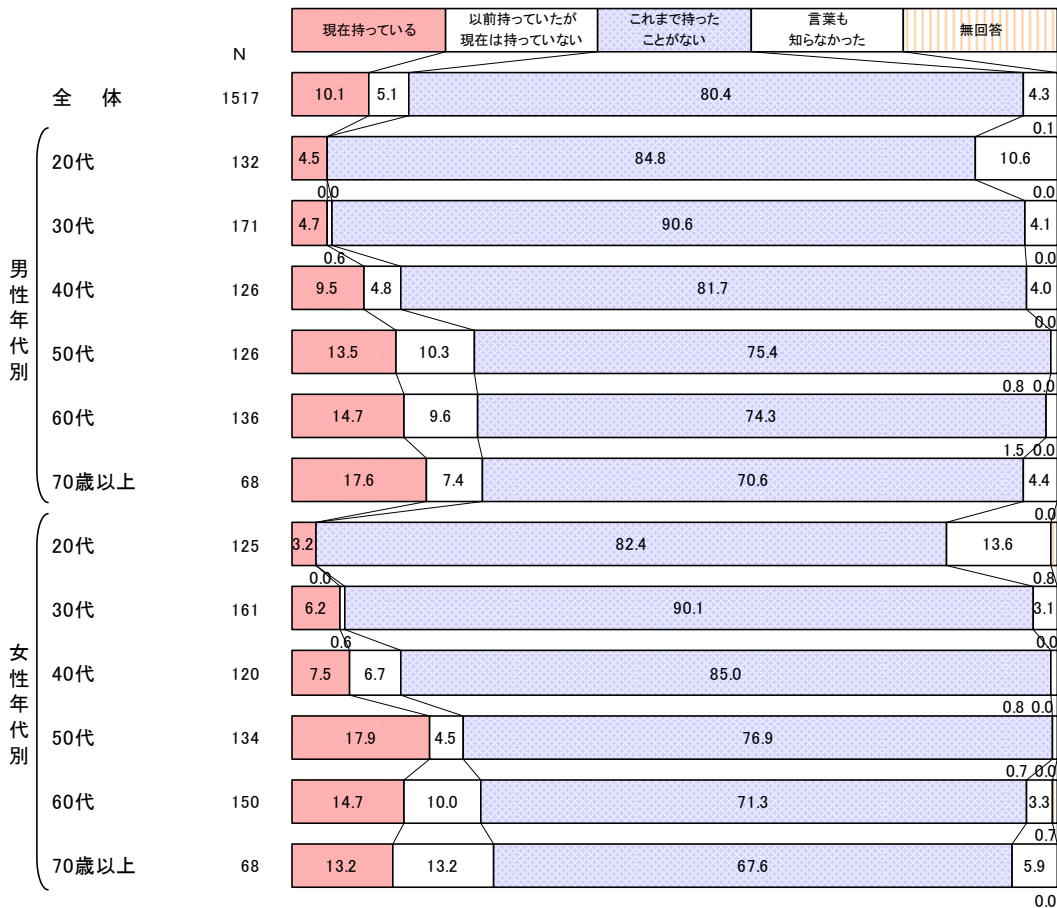
	N	現在持っている	以前持っていたが 現在は持っていない	これまで持った ことがない	言葉も 知らなかった	無回答
全体	1507	11.1	4.2	78.4		6.2
性別	男性	10.1	4.2	80.7		4.9
	女性	12.1	4.2	76.1		7.4
年代別	20代	2.0	0.0	82.9		15.1
	30代	6.0	3.3	84.8		6.0
	40代	7.4	3.3	87.3		2.0
	50代	13.4	5.1	78.3		2.9
	60代	23.0	7.0	66.0		3.9
	70歳以上	19.3	9.0	63.4		8.3
	年収別	100万円未満	10.4	4.2	76.0	
300万円未満		10.5	4.7	77.5		7.3
500万円未満		10.1		83.0		5.1
800万円未満		12.8	1.8	81.0		3.6
1000万円未満		10.3	13.8	75.9		0.0
1000万円以上		24.4	4.9	70.7		0.0
地域別	首都圏	9.6	4.3	79.2		6.9
	阪神圏	13.3	4.2	77.3		5.0

【投資信託の保有状況(単数回答)／性×年代別】

<平成 20 年>



<平成 19 年>



(2) 投資信託保有者の特徴(現在保有層)

次に、現在投資信託を保有している人(現在保有層)の特徴をみてる。

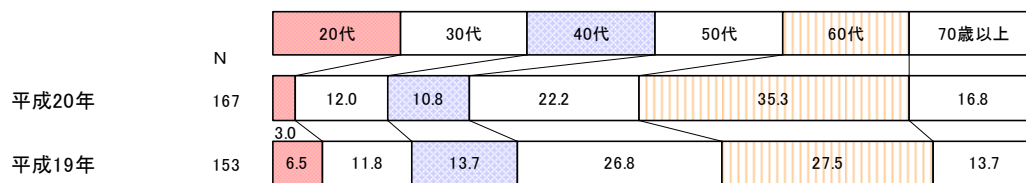
年齢別構成比は「60代」(35.3%)と「50代」(22.2%)とが他の年代に比べて高く、50代以上が約4分の3を占めている。

前回調査と比べると「60代」が上昇しており、それに伴い60代以上の“高齢層”比率が上昇している。

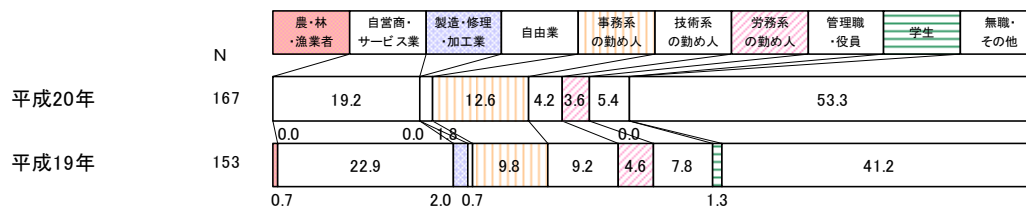
また、職業別構成比をみると、「無職・その他」が53.3%と過半数を占め、次いで「自営商・サービス業」(19.2%)、「事務系の勤め人」(12.6%)の順となっている。

前回調査と比べると、「無職・その他」が高くなっており、有職者比率が低くなっている。

【投資信託現在保有層の年齢別構成比(単数回答)／時系列】



【投資信託現在保有層の職業別構成比(単数回答)／時系列】



(3) 投資信託の保有種類(現在保有層)

現在保有層における投資信託保有種類をみると、「株式投資信託」が69.5%で最も高く、「外国で作られた投資信託」(33.5%)と「公社債投資信託」(31.7%)がほぼ同率で続いている。

前回調査と比べると、保有率は「株式投資信託」では12.6ポイント上昇している。

投資信託保有種類数を、回答サンプルで除して求めた平均保有種類数は、1.54種類である。

性別でみると、「外国で作られた投資信託」は女性より男性の保有率が高く、平均保有種類数もやや男性の方が多い。

なお、参考までに、投資信託の種類別保有率を調査対象全体ベースで換算すると、「株式投資信託」は7.7%となる。

【投資信託の保有種類(重複回答)／時系列－現在保有層ベース】

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株式投資信託	外国で 作られた 投資信託	公社債 投資信託	ETF	不動産投信	種類不明	平均保有 種類数
平成20年	167 100.0	116 69.5	56 33.5	53 31.7	15 9.0	14 8.4	2 1.2	1.54
平成19年	153 100.0	87 56.9	47 30.7	57 37.3	10 6.5	26 17.0	10 6.5	1.59

【投資信託の保有種類(重複回答)／対象者属性別－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株式投資信託	外国で 作られた 投資信託	公社債 投資信託	ETF	不動産投信	種類不明	平均保有 種類数	
全 体	167 100.0	116 69.5	56 33.5	53 31.7	15 9.0	14 8.4	2 1.2	1.54	
性別	男 性	76 100.0	53 69.7	31 40.8	21 27.6	8 10.5	9 11.8	1 1.3	1.63
	女 性	91 100.0	63 69.2	25 27.5	32 35.2	7 7.7	5 5.5	1 1.1	1.47
年 代 別	20代	5 100.0	4 80.0	- -	2 40.0	- -	- -	- -	1.20
	30代	20 100.0	14 70.0	6 30.0	6 30.0	1 5.0	- -	- -	1.35
	40代	18 100.0	13 72.2	7 38.9	4 22.2	2 11.1	5 27.8	- -	1.72
	50代	37 100.0	26 70.3	12 32.4	12 32.4	2 5.4	3 8.1	- -	1.49
	60代	59 100.0	39 66.1	20 33.9	19 32.2	6 10.2	4 6.8	1 1.7	1.52
	70歳以上	28 100.0	20 71.4	11 39.3	10 35.7	4 14.3	2 7.1	1 3.6	1.74
	年 収 別	100万円未満	42 100.0	27 64.3	11 26.2	15 35.7	2 4.8	2 4.8	- -
300万円未満	40 100.0	28 70.0	17 42.5	11 27.5	2 5.0	4 10.0	1 2.5	1.59	
500万円未満	28 100.0	21 75.0	10 35.7	6 21.4	4 14.3	0 0.0	- -	1.46	
800万円未満	25 100.0	14 56.0	6 24.0	11 44.0	3 12.0	2 8.0	1 4.0	1.50	
1000万円未満	6 100.0	6 100.0	1 16.7	3 50.0	- -	- -	- -	1.67	
1000万円以上	10 100.0	8 80.0	6 60.0	1 10.0	1 10.0	4 40.0	- -	2.00	

【投資信託種類別保有率(重複回答)／時系列－全体ベース】

(%)

	全 体	株式 投資信託	外国で 作られた 投資信託	公社債 投資信託	ETF	不動産投信	種類不明
平成20年	1507	7.7	3.7	3.5	1.0	0.9	0.1
平成19年	1517	5.7	3.1	3.8	0.7	1.7	0.7

(4) 投資信託の購入額(現在保有層)

現在保有層における投資信託の保有種類別平均購入額をみると、「株式投資信託」は345.2万円であるが、「公社債投資信託」や「外国で作られた投資信託」は約250万円にとどまる。

前回調査の平均購入額と比べると、「株式投資信託」や「公社債投資信託」では大きな変化はみられないが、「外国で作られた投資信託」は150万円ほど減少している。

なお、1人あたりの合計購入額の平均は412.9万円であり、前回調査(432.2万円)に比べるとやや減少している。

【保有種類別投資額－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	(上段:N)(下段:%)								(上段:万円)(下段:人)	
	全 体	100万円未満	300万円未満	500万円未満	800万円未満	1000万円未満	1000万円以上	投資額不明	H20年 平均投資額 (万円)	H19年 平均投資額 (万円)
株式投資信託	116 100.0	37 31.9	34 29.3	22 19.0	10 8.6	3 2.6	9 7.8	1 0.9	345.2 116	342.9 87
公社債投資信託	53 100.0	21 39.6	17 32.1	8 15.1	2 3.8	1 1.9	2 3.8	2 3.8	249.0 53	259.8 57
外国で作られた投資信託	56 100.0	18 32.1	23 41.1	8 14.3	3 5.4	2 3.6	1 1.8	1 1.8	248.2 56	390.4 47
不動産投信	14 100.0	5 35.7	3 21.4	4 28.6	1 7.1	-	1 7.1	-	328.6 14	332.0 26
ETF	15 100.0	3 20.0	6 40.0	3 20.0	-	-	2 13.3	1 6.7	396.4 15	320.0 10
合計購入額	167 100.0	38 22.8	51 30.5	31 18.6	10 6.0	6 3.6	19 11.4	12 7.2	412.9 167	432.2 153

(5) 株式投資信託の保有種類と購入額(現在保有層のうち株式投資信託保有者)

現在保有層のうち、株式投資信託保有者が保有している株式投資信託の種類は「外国債券に主に投資する株式投信」が44.8%で最も高く、「国内の株式に主に投資する株式投信」が41.4%でこれに続く。

前回調査と比べると、「外国債券に主に投資する株式投信」保有率が上昇した一方で、「国内の株式に主に投資する株式投信」保有率が低下したため、両者の順位が入れ替わっている。

株式投資信託の保有種類数を、回答サンプルで除して求めた平均保有種類数は、1.59種類であり、これは前回調査とほぼ同レベルを維持している。

性別でみると、男性は「国内株式に主に投資する株式投信」が最も高いが、女性では「外国債券に主に投資する株式投信」が最も高い。平均保有種類数は男性の方がやや多い。

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／時系列－現在保有層・株式投資信託者ベース】

(上段:N)(下段:%)

	全 体	外国債券に 主に投資する 株式投信	国内株式に 主に投資する 株式投信	様々な資産に 投資する 株式投信	外国株式に 主に投資する 株式投信	不動産投信に 主に投資する 株式投信	その他	投資先不明	平均保有 種類数
平成20年	116 100.0	52 44.8	48 41.4	37 31.9	30 25.9	11 9.5	5 4.3	1 0.9	1.59
平成19年	87 100.0	28 32.2	45 51.7	17 19.5	13 14.9	9 10.3	3 3.4	15 17.2	1.60

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／対象者属性別

－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	外国債券に 主に投資する 株式投信	国内株式に 主に投資する 株式投信	様々な資産に 投資する 株式投信	外国株式に 主に投資する 株式投信	不動産投信に 主に投資する 株式投信	その他	投資先不明	平均保有 種類数	
全 体	116 100.0	52 44.8	48 41.4	37 31.9	30 25.9	11 9.5	5 4.3	1 0.9	1.59	
性 別	男 性	53 100.0	20 37.7	25 47.2	16 30.2	20 37.7	8 15.1	3 5.7	1 1.9	1.77
	女 性	63 100.0	32 50.8	23 36.5	21 33.3	10 15.9	3 4.8	2 3.2	-	1.44
年 代 別	20代	4 100.0	2 50.0	-	-	3 75.0	-	-	-	1.25
	30代	14 100.0	3 21.4	6 42.9	4 28.6	3 21.4	1 7.1	-	-	1.21
	40代	13 100.0	5 38.5	5 38.5	4 30.8	6 46.2	3 23.1	1 7.7	-	1.85
	50代	26 100.0	15 57.7	10 38.5	12 46.2	4 15.4	2 7.7	1 3.8	-	1.69
	60代	39 100.0	17 43.6	18 46.2	13 33.3	10 25.6	3 7.7	3 7.7	-	1.64
	70歳以上	20 100.0	10 50.0	9 45.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	-	1 5.0	1.54
	年 取 別	100万円未満	27 100.0	17 63.0	8 29.6	9 33.3	4 14.8	3 11.1	1 3.7	-
300万円未満	28 100.0	13 46.4	14 50.0	7 25.0	3 10.7	1 3.6	2 7.1	-	1.43	
500万円未満	21 100.0	9 42.9	7 33.3	7 33.3	10 47.6	1 4.8	-	1 4.8	1.70	
800万円未満	14 100.0	4 28.6	8 57.1	5 35.7	6 42.9	1 7.1	-	-	1.71	
1000万円未満	6 100.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	-	1 16.7	-	-	1.33	
1000万円以上	8 100.0	3 37.5	4 50.0	3 37.5	3 37.5	3 37.5	1 12.5	-	2.13	

【株式投資信託の保有種類別投資額－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	100万円未満	300万円未満	500万円未満	800万円未満	1000万円未満	1000万円以上	投資額不明	平均投資額 (万円)
国内株式	48 100.0	21 43.8	11 22.9	9 18.8	3 6.3	1 2.1	3 6.3	-	292.7
外国債券	52 100.0	12 23.1	25 48.1	8 15.4	2 3.8	1 1.9	4 7.7	-	324.0
様々な資産	37 100.0	6 16.2	12 32.4	10 27.0	5 13.5	1 2.7	2 5.4	1 2.7	380.6
外国株式	30 100.0	9 30.0	10 33.3	9 30.0	2 6.7	-	-	-	245.0
不動産投信	11 100.0	4 36.4	5 45.5	1 9.1	1 9.1	-	-	-	204.6
その他	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	-	-	290.0

4. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

(1) 投資信託購入のきっかけ

投資信託を購入したきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が 58.0%で最も高く、他のきっかけに大きな差をつけている。以下、「家族・友人から良いという話を聞いて」(26.8%)、「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」(15.6%)、「電話案内やDMが送られてきたので」「商品広告等を見て良さそうだったので」(ともに 11.7%)が続いている。

前回調査と比べると、「家族・友人から良いという話を聞いて」「新聞や雑誌記事等で良さそうだったから」がやや上昇している。

対象者属性別にみると、性別では「証券会社や銀行等の人から勧められて」「家族・友人から良いという話を聞いて」は男性より女性の方が高い。「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」「電話案内やDMが送られてきたので」「商品広告等を見て良さそうだったので」「投資信託を解説した本を読んで」「インターネットで良さそうと思った」は男性の方が高く、男性の方が多様なきっかけから購入している。

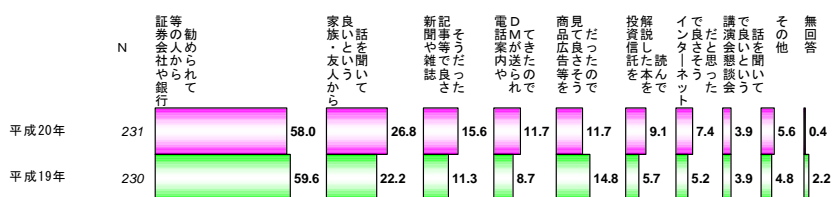
年代別では、50代以上は「証券会社や銀行等の人から勧められて」が他の理由に比べ特に高い。一方、40代以下では「家族・友人から良いという話を聞いて」が「証券会社や銀行等の人から勧められて」を上回り、きっかけのトップとなっている。

年収別では、“300万円以上 800万円未満”層では「証券会社や銀行等の人から勧められて」が他の層に比べ低く、「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」など他のきっかけから購入した割合が高い。「電話案内やDMが送られてきたので」は300万円以上 500万円未満の層で特に高い。

地域別にみると、阪神圏は首都圏に比べ「証券会社や銀行等の人から勧められて」購入した率がやや高く、「電話案内やDMが送られてきたので」は首都圏でやや高い。

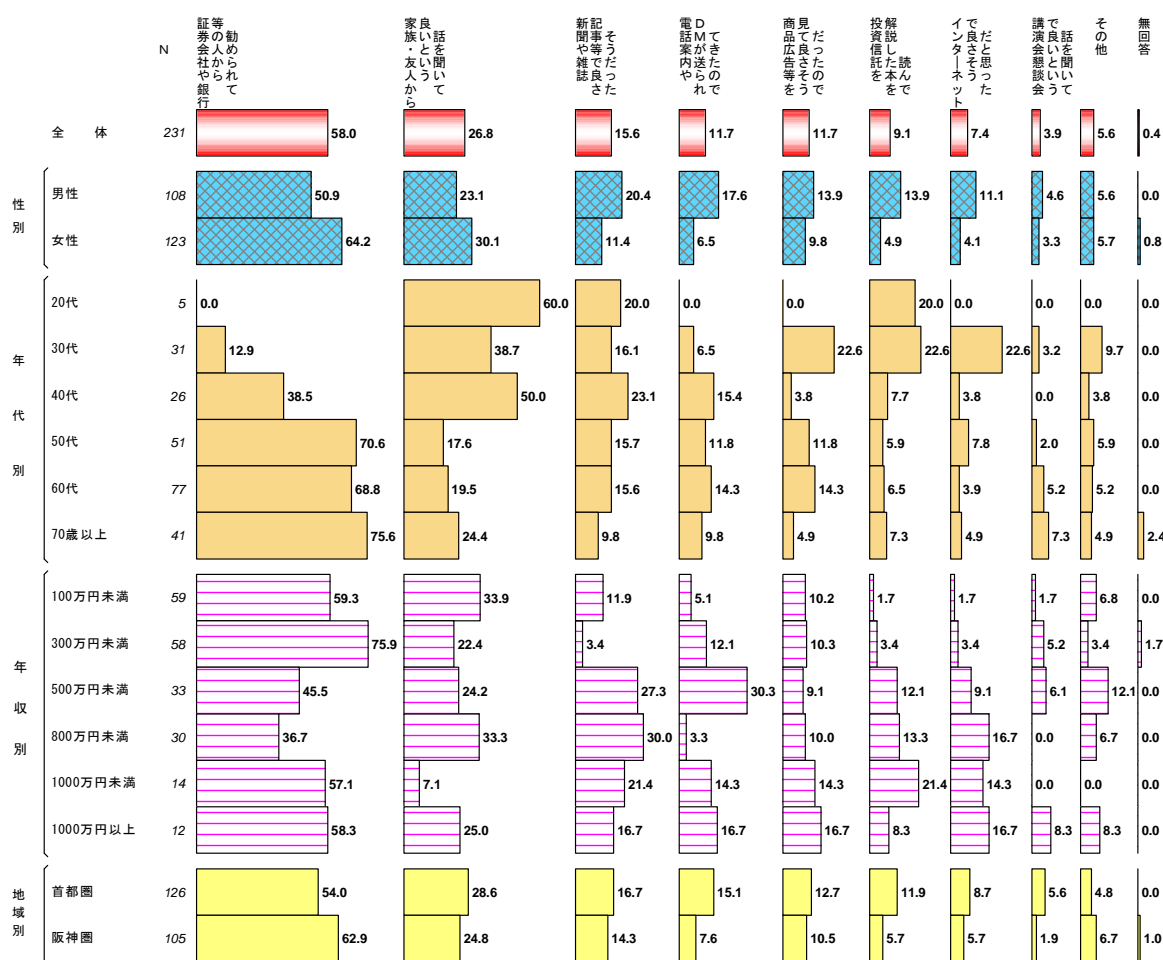
投資信託保有状況別でみると、現在保有の有無では特に大きな差はみられない。

【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



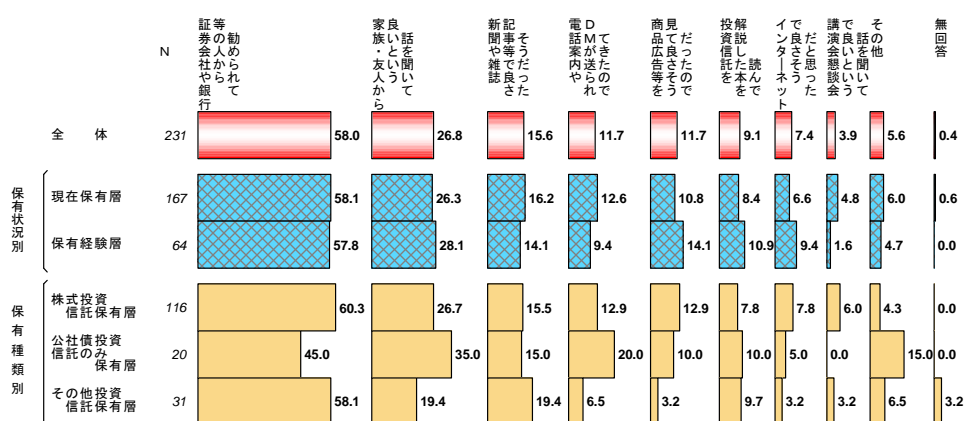
【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

注)投資信託保有種類別については回答結果をもとに以下のグループに分類した。

- ①『株式投資信託保有層』=株式投資信託保有者
- ②『公社債投資信託のみ保有層』=「公社債投資信託」のみ保有者(①は除く)
- ③『その他投資信託保有層』=①と②を除く投資信託保有者

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(2) 投資信託の購入金融機関

投資信託を購入した金融機関は、「証券会社」が 52.4%、「銀行等の金融機関」が 48.1%であり、この2ルート以外は10%未満に過ぎない。

前回調査と比べると、「証券会社」がやや低下し、「銀行等の金融機関」がやや上昇している。

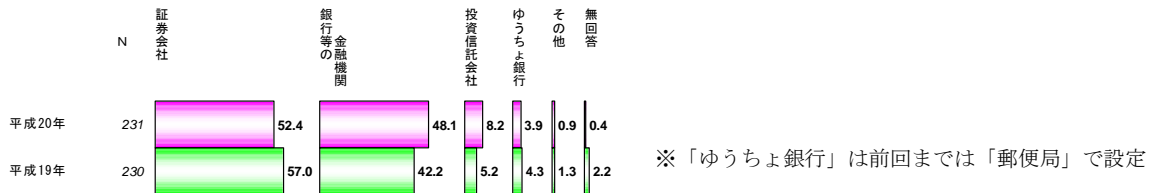
対象者属性別にみると、性別では「銀行等の金融機関」での購入率は男性より女性の方が高い。また、男性では「証券会社」の方が「銀行等の金融機関」より高い。

年代別では、「銀行等の金融機関」が30代でやや低く、50代、70歳以上でやや高い。また、「投資信託会社」は20~50代では年代が高くなるほど低くなっている。

年収別では、100万円未満の層で「銀行等の金融機関」がやや高い。

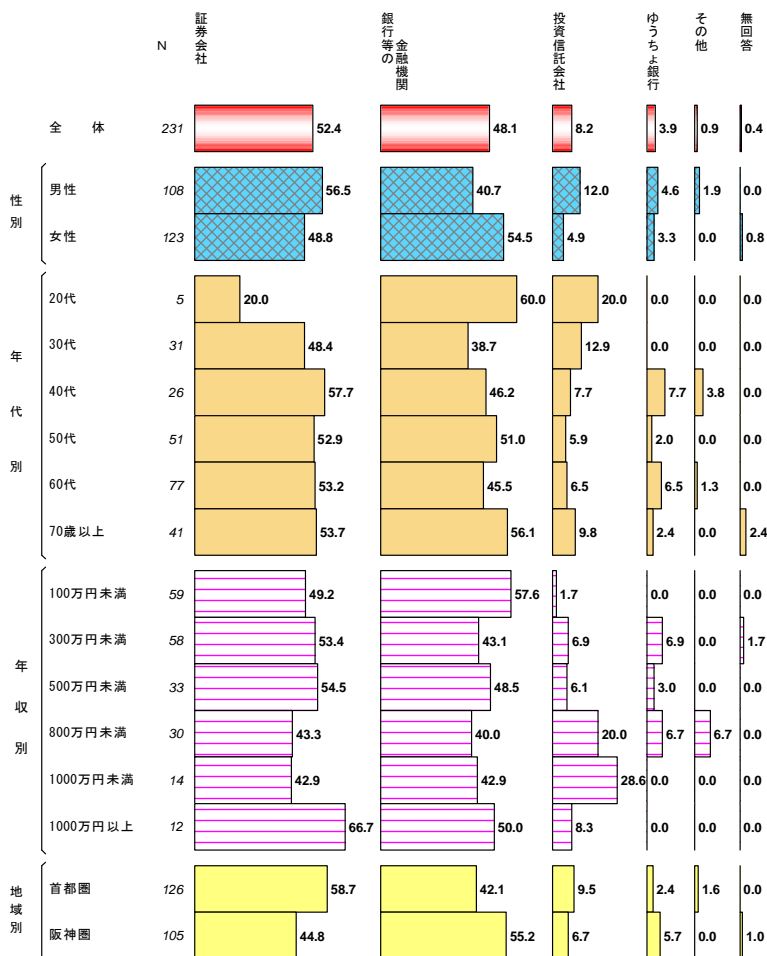
地域別にみると、首都圏では「証券会社」での購入率の方が「銀行等の金融機関」より高いが、阪神圏では「銀行等の金融機関」の方が高い。

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の購入金融機関(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



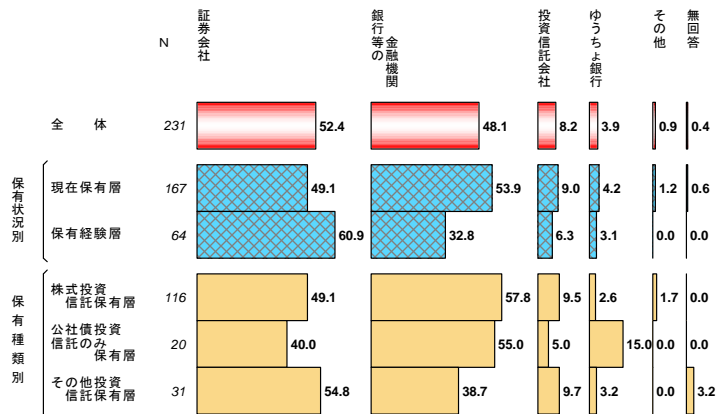
投資信託保有状況別にみると、現在保有層は「銀行等の金融機関」、保有経験層では「証券会社」での購入率が高い。

投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層は「証券会社」より「銀行等の金融機関」での購入率が高いが、その他投資信託保有層では「証券会社」の購入率が高い。

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(3) 販売員の説明・勧誘方法

①販売員の説明・勧誘方法への満足状況

投資信託を購入した際の販売員の説明・勧誘方法への満足状況は、「とても満足した」は3.9%、「まあ満足した」は51.1%であり、これらを合わせた“満足層”は55.0%と過半数を占める。

一方、「あまり満足しなかった」(6.5%)と「まったく満足しなかった」(1.7%)を合わせた“不満層”は8.2%と低い。「とても満足した」から「まったく満足しなかった」まで、5点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、3.5点となった。

前回調査と比べると、「まあ満足した」が7.2ポイント高くなり、“満足層”比率もやや上昇している。ただし、平均点数には変化はみられない。

対象者属性別にみると、“満足層”は男性より女性の方が高い。

年代別では、50代では“満足層”がやや低い。

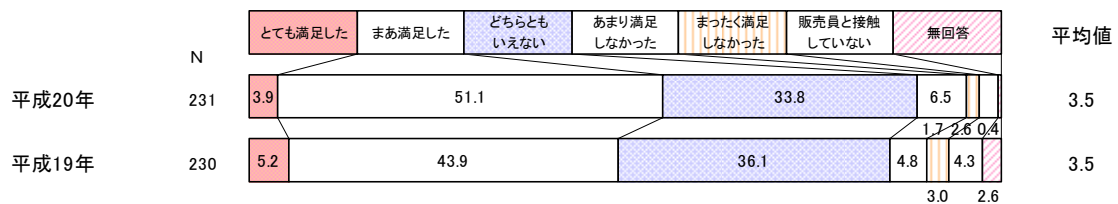
年収別では、“満足層”は100円万以上300円万未満で最も高く、年収が高くなるにつれ低下する傾向がみられる。

地域別では、阪神圏で“満足層”がやや高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べて“満足層”がやや高い。

投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、“満足層”は株式投資信託保有層が最も高く、その他投資信託保有層が最も低い。

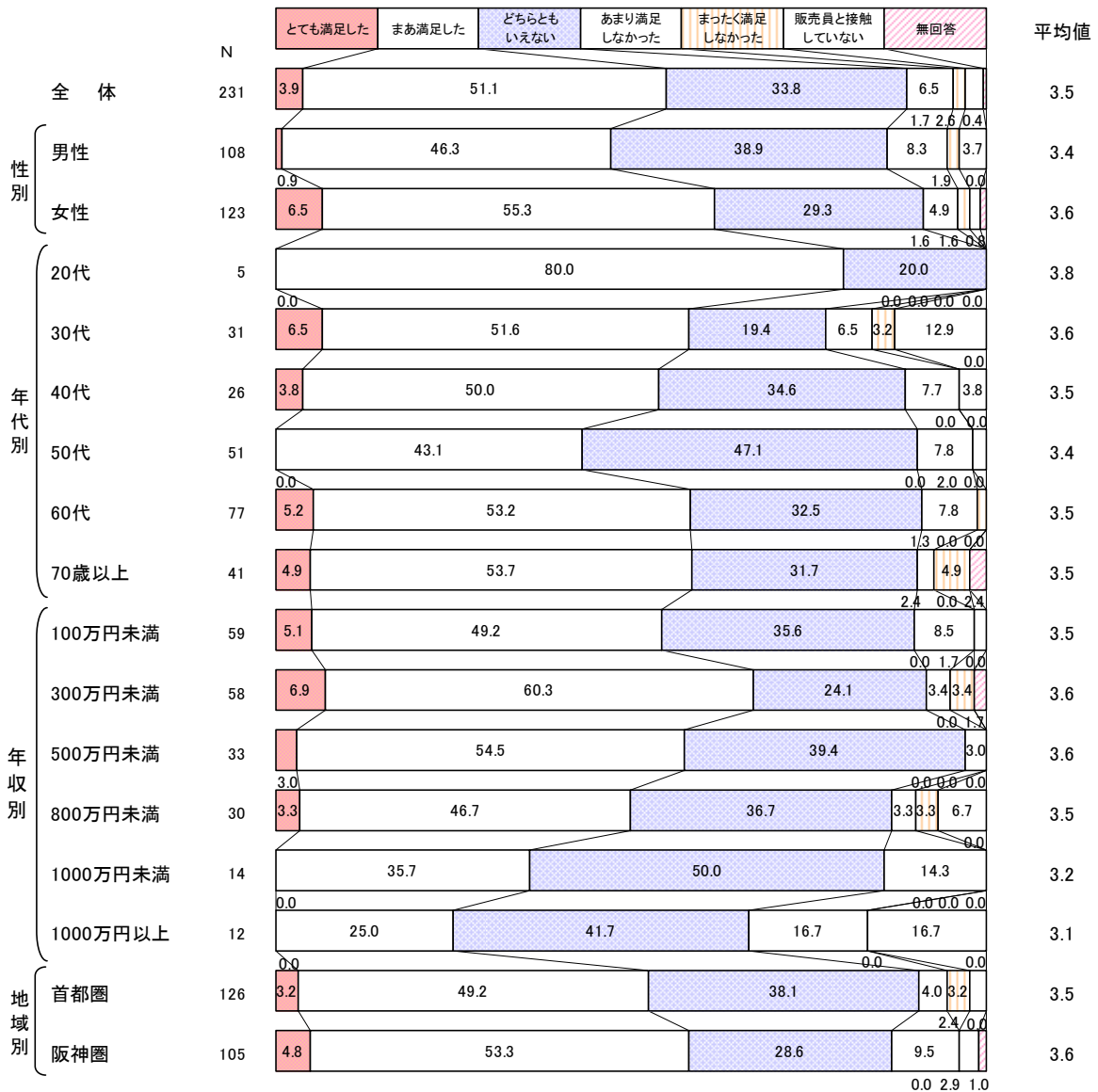
【販売員の説明・勧誘方法への満足状況(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



【販売員の説明・勧誘方法への満足状況(単数回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層ベース

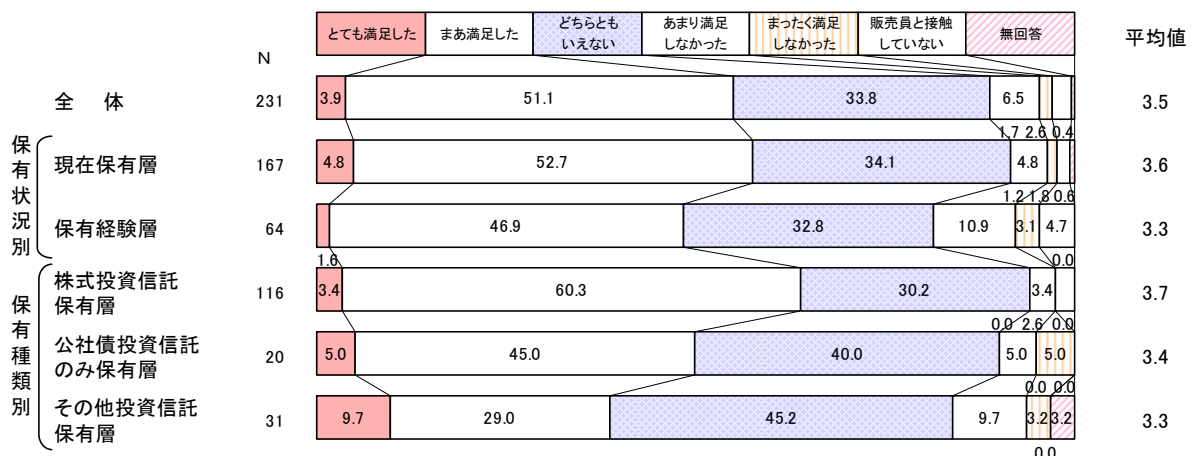
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



【販売員の説明・勧誘方法への満足状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



②販売員の説明・勧誘方法への満足理由(現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者)

現在保有層・保有経験層のうち、販売員の説明・勧誘方法満足者に満足した理由を尋ねたところ、「商品のリスクもきちんと説明した」が 61.4%で最も高く、次いで「商品の魅力をわかりやすく説明した」が 42.5%で高い。一方、「質問にきちんと答えてくれた」「自分のニーズにあった商品を勧めた」はともに20%台と低くなっている。

前回調査と比べると、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が大きく低下し、「質問にきちんと答えてくれた」がやや上昇している。

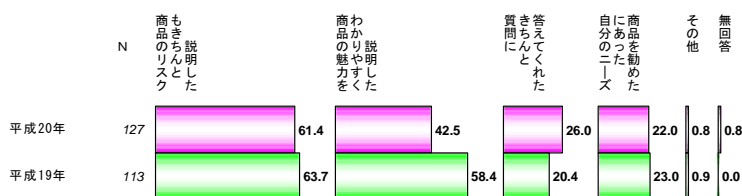
対象者属性別にみると、「商品の魅力をわかりやすく説明した」「質問にきちんと答えてくれた」は男性で高く、「自分のニーズにあった商品を勧めた」は女性で高い。

地域別では、「商品のリスクもきちんと説明した」は特に阪神圏で高い。一方、「商品の魅力をわかりやすく説明した」「質問にきちんと答えてくれた」は首都圏の方が高くなっている。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層では「商品のリスクもきちんと説明した」が 69.8%を占め、保有経験層(35.5%)との差が大きい。また、「質問にきちんと答えてくれた」は保有経験層で高くなっている。

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／時系列

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース



【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

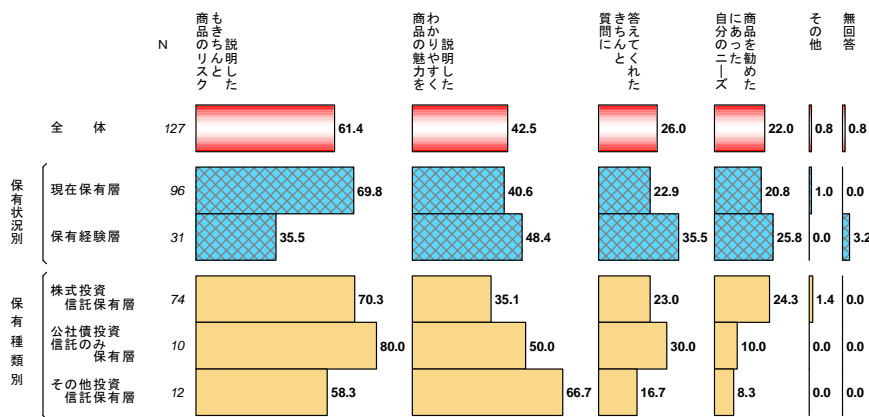
(上段:N)(下段:%)

	全 体	商品のリスクもきちんと説明した	商品の魅力をわかりやすく説明した	質問にきちんと答えてくれた	自分のニーズにあった商品を勧めた	その他	無回答
全 体	127 100.0	78 61.4	54 42.5	33 26.0	28 22.0	1 0.8	1 0.8
性別							
男 性	51 100.0	31 60.8	24 47.1	17 33.3	6 11.8	1 2.0	-
女 性	76 100.0	47 61.8	30 39.5	16 21.1	22 28.9	-	1 1.3
年代別							
20代	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-
30代	18 100.0	11 61.1	5 27.8	5 27.8	4 22.2	-	-
40代	14 100.0	8 57.1	8 57.1	2 14.3	5 35.7	-	-
50代	22 100.0	14 63.6	9 40.9	5 22.7	5 22.7	-	-
60代	45 100.0	28 62.2	23 51.1	14 31.1	6 13.3	1 2.2	-
70歳以上	24 100.0	14 58.3	8 33.3	6 25.0	7 29.2	-	1 4.2
年収別							
100万円未満	32 100.0	21 65.6	13 40.6	8 25.0	6 18.8	-	-
300万円未満	39 100.0	23 59.0	18 46.2	7 17.9	10 25.6	-	1 2.6
500万円未満	19 100.0	14 73.7	4 21.1	9 47.4	5 26.3	-	-
800万円未満	15 100.0	9 60.0	9 60.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	-
1000万円未満	5 100.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0	-	-	-
1000万円以上	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	-	-
地域別							
首都圏	66 100.0	37 56.1	31 47.0	20 30.3	14 21.2	1 1.5	-
阪神圏	61 100.0	41 67.2	23 37.7	13 21.3	14 23.0	-	1 1.6

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



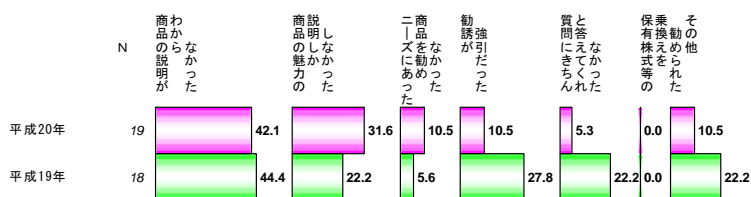
③販売員の説明・勧誘方法への不満理由(現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法不満者)

販売員の説明・勧誘方法不満者の不満理由については、N数(サンプル数)が少ないため、参考データとなるが、「商品の説明がわからなかった」(42.1%)が最も高く、次いで「商品の魅力の説明がしなかった」(31.6%)が高い。一方、「ニーズに合った商品を勧めなかった」や「勧誘が強引だった」は10%強(ともに10.5%)にとどまっている。

【販売員の説明・勧誘への不満理由(重複回答)／時系列

－現在保有層・保有経験層のうち、説明・勧誘方法不満者ベース】

※N数(サンプル数)が少ないため、データを見る際に注意が必要。



(4) 投資信託購入の決め手

投資信託を購入する決め手となったのは、「値上がり期待」(37.2%)、「分配の頻度・実績」(34.6%)、「安全性の高さ」(34.2%)、「過去の運用実績」(29.0%)の4項目が比較的高く、他の項目を引き離している。「特に考えずに勧めで」購入した人は10.4%みられる。

前回調査と比べると、「値上がり期待」がやや高まり、「過去の運用実績」がやや下がっているものの、上位の4項目が特に高い点では同様の結果となっている。

対象者属性別でみると、「値上がり期待」や「過去の運用実績」は女性より男性の方が高く、「分配の頻度・実績」や「安全性の高さ」は女性の方がやや高い。

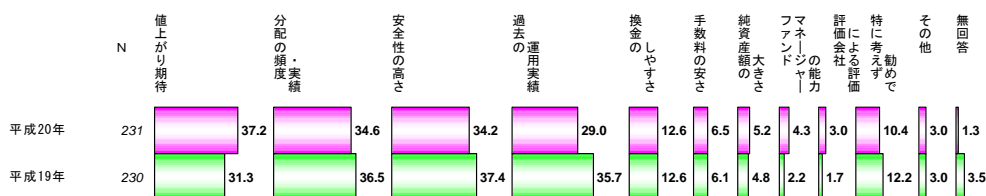
年代別では、「値上がり期待」は50代で27.5%と最も低いが、30代、60代、70歳以上ではいずれも40%台と高い。また、「分配の頻度・実績」は70歳以上で低く、「過去の運用実績」は30代でやや高い。

年収別では、「分配の頻度・実績」は“500万円未満”の層で高く、「過去の運用実績」は300万円以上500万円未満の層で高い。また、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「手数料の安さ」は年収が高い層ほど高くなっている。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べて「分配の頻度・実績」が高いが、「換金のしやすさ」は低い。

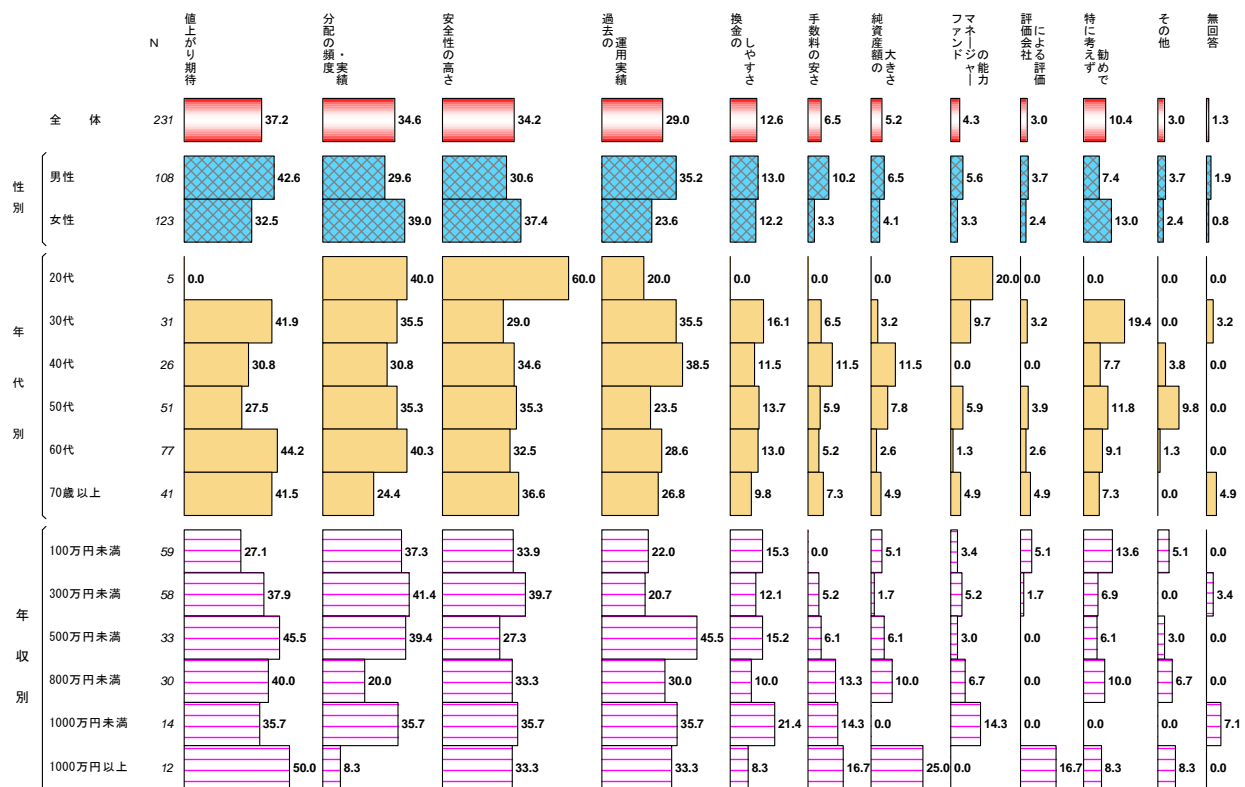
投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層では「分配の頻度・実績」と「過去の運用実績」が他層より高い。

【投資信託購入の決め手(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託購入の決め手(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

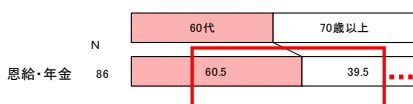
※N数(サンプル数)が少ないため、データを見る際に注意が必要。



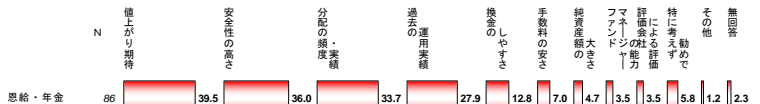
【参考】

60代以上の恩給・年金生活者では、「値上がり期待」(39.5%)が最も高く、「安全性の高さ」(36.0%)、「分配金の頻度・実績」(33.7%)が続く。

(主な収入源—現在保有層・保有経験層ベース)



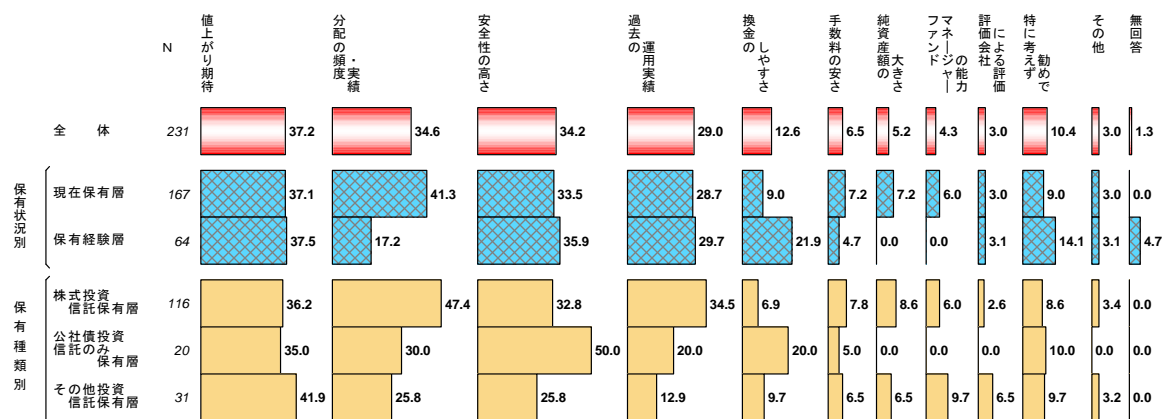
(投資信託購入の決め手(重複回答)／60代以上恩給・年金生活者—現在保有層・保有経験層ベース)



【投資信託購入の決め手(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(5) 投資信託の購入資金

投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」が 52.8%で特に高い。次いで「月々の収入から」(25.5%)、「退職金・相続などの臨時収入から」(15.6%)が続き、「株式・債券等をお金」「ボーナスから」「生保・損保の満期・解約金から」も 10%前後みられる。

前回調査と比べると、「定期性の預貯金等から」がやや高くなっている。

対象者属性別にみると、「月々の収入から」「株式・債券等をお金」は男性でやや高い。

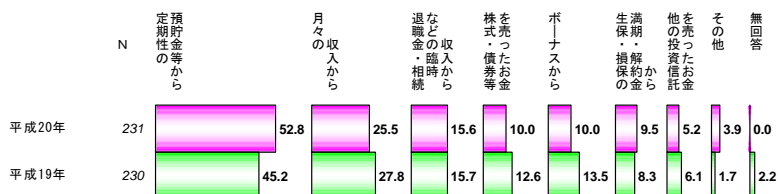
年代別では、「月々の収入から」や「ボーナスから」は 30 代が最も高く、年代が上がるにつれ低下する傾向がみられる。「退職金・相続などの臨時収入から」や「生保・損保の満期・解約金から」は年代が上がるほど高い傾向がみられ、60 代が最も高い。70 歳以上では「株式・債券等をお金」が「定期性の預貯金から」に次いで高い。

年収別では、年収が“500 万円未満”の層では「定期性の預貯金から」が主であるが、500 万円以上 800 万円未満の層では「月々の収入から」も高い。「退職金・相続などの臨時収入から」は 300 万円以上 500 万円未満の層で高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べ「退職金・相続などの臨時収入から」や「生保・損保の満期・解約金から」が高く、「月々の収入から」は低い。

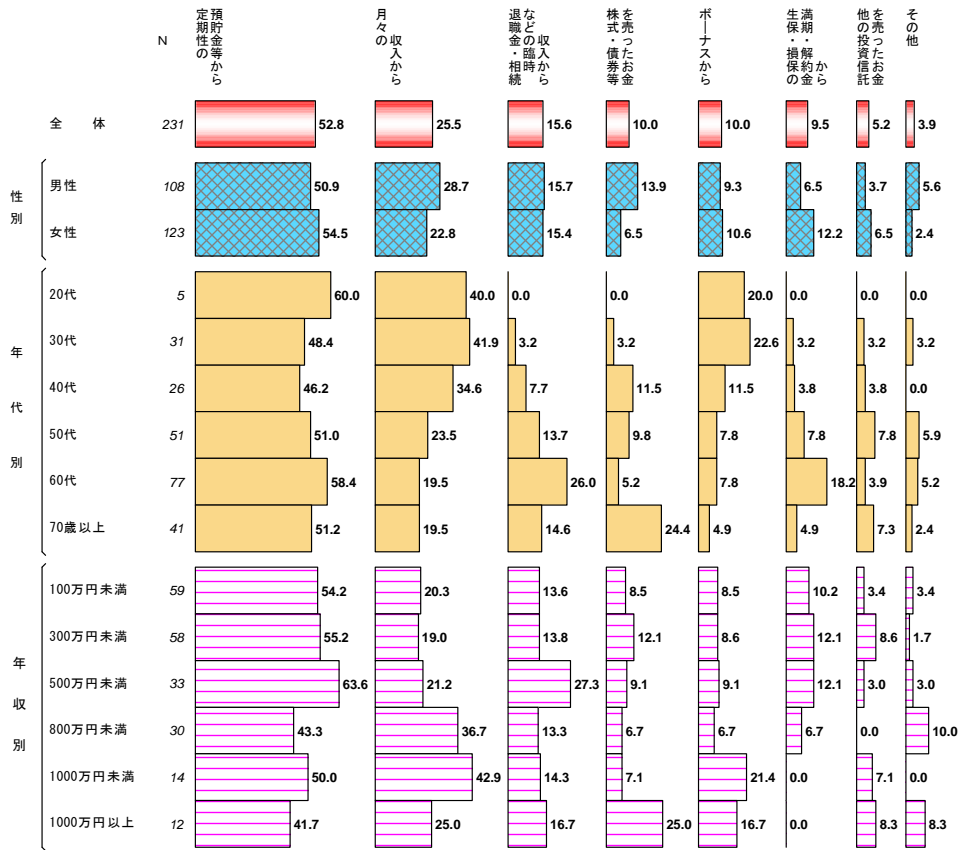
投資信託保有種類別でみると、「月々の収入から」はその他投資信託保有層では低い。

【投資信託の購入資金(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の購入資金(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

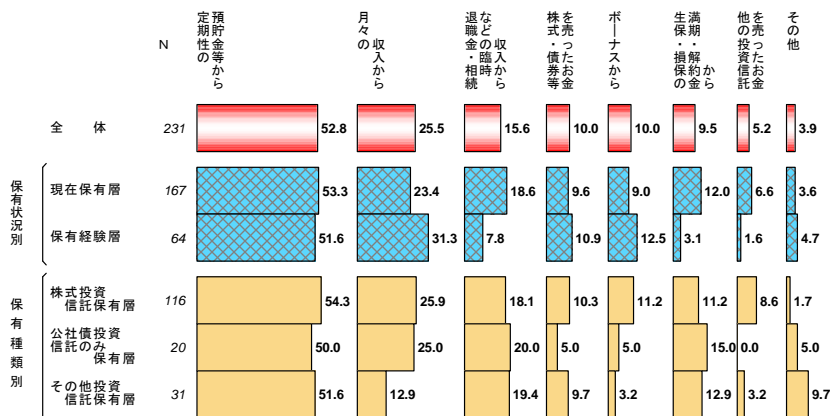
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入資金(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(6) 投資信託の購入目的

投資信託を購入した目的は、「特に目的はないが資金を増やしたいため」(35.5%)と「老後の生活資金」(34.6%)がほぼ同率で最も高く、次いで「資産のリスク分散」(28.1%)が続く。

前回調査と比べると、「資産のリスク分散」がやや上昇している。

対象者属性別にみると、性別では男性は女性に比べ「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が高く、特に「資産のリスク分散」は差が大きい。女性では「特に目的はないが資金を増やしたいため」(43.1%)が最も高くなっており、具体的な目的についても「老後の生活資金」(30.1%)以外は20%以下と低い。

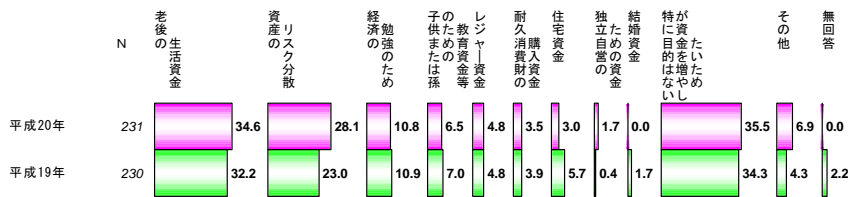
年代別では、「老後の生活資金」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、60代以上の“高齢層”では「特に目的はないが資金を増やしたいため」の割合は低い。

年収別では、「老後の生活資金」や「経済の勉強のため」は年収が300万円以上500万円未満の層が最も高い山型の分布となっている。「資産リスクの分散」は年収が高くなるほど高まる傾向がみられ、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は年収が100万円未満の層で高い。

投資信託保有状況別に購入目的をみると、「老後の生活資金」と「資産のリスク分散」は現在保有層の方が保有経験層に比べ高いが、「経済の勉強のため」は保有経験層の方が高い。また、保有経験層では「特に目的はないが資金を増やしたいため」がほぼ半数を占めている。

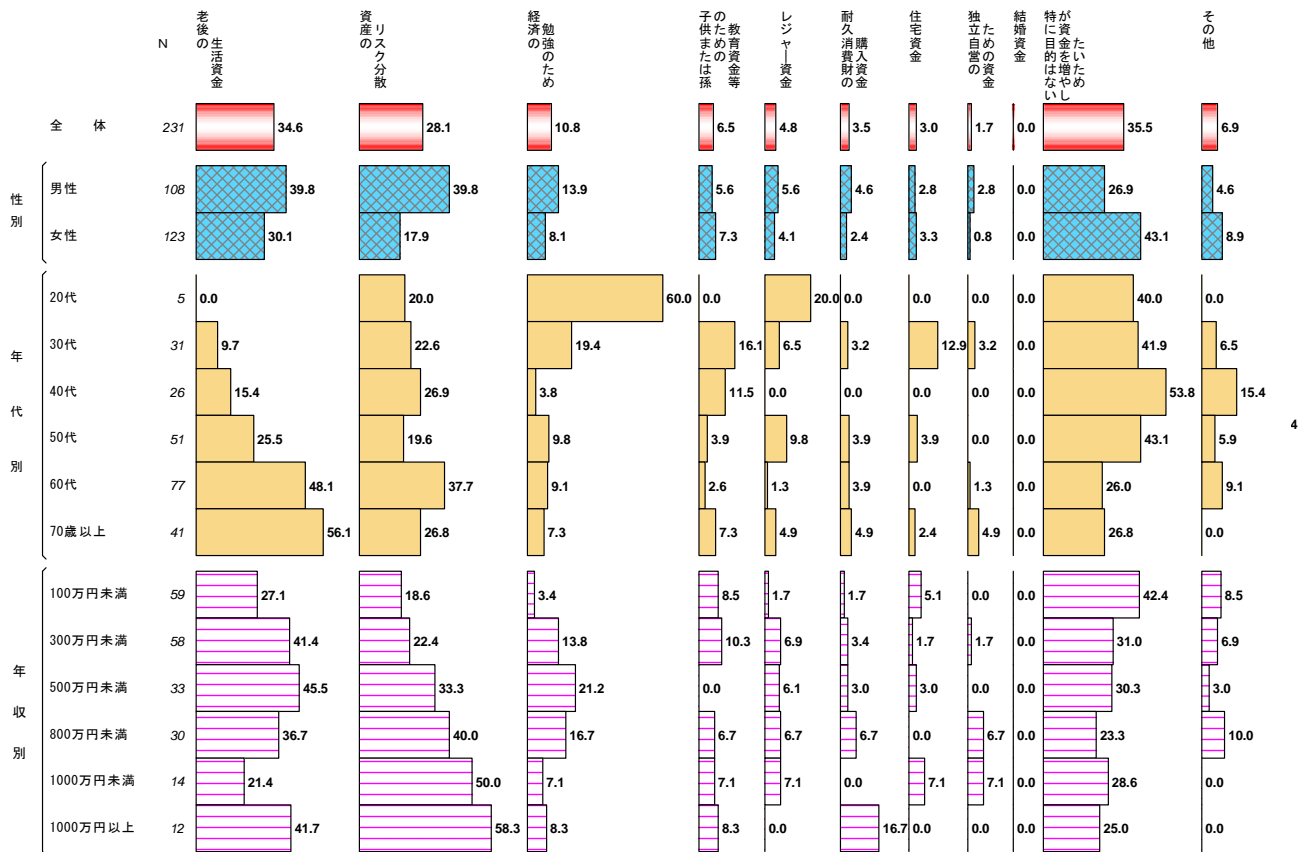
投資信託保有種類別では、その他投資信託保有層は「老後の生活資金」が他の層に比べ特に高い。

【投資信託の購入目的(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の購入目的(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

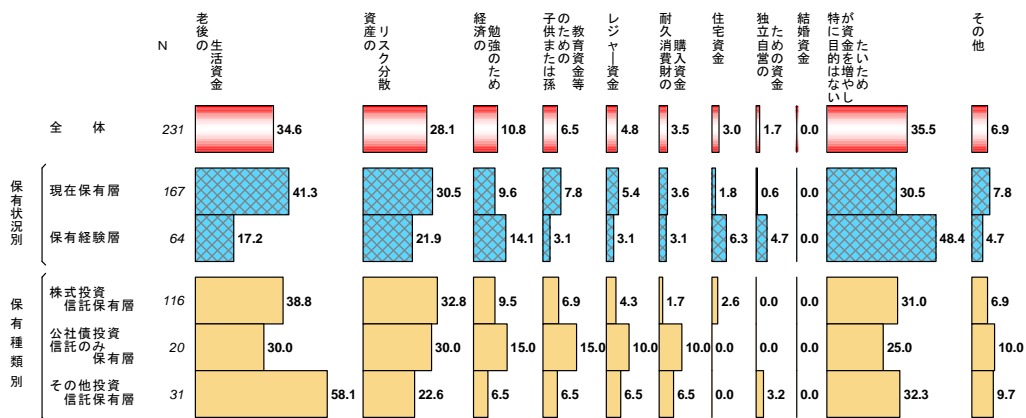
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入目的(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(7) 投資信託の運用実績評価

投資信託の運用実績評価を尋ねると、「期待した以上だった」は0.9%、「期待通りの実績だった」は19.5%であり、これらを合わせた“期待以上”は20.4%である。一方、「期待していたよりもやや悪かった」は36.8%、「全く期待はずれだった」は16.9%であり、これらを合わせた“期待以下”は53.7%と半数を超え、“期待以上”より高い。また、「なんともいえない」が25.5%みられる。

前回調査と比べると、“期待以上”が低下、“期待以下”が上昇しており、運用実績評価は全体的に悪化している。

対象者属性別でみると、性別では、男性は女性に比べ“期待以下”が高く、「なんともいえない」は低い。

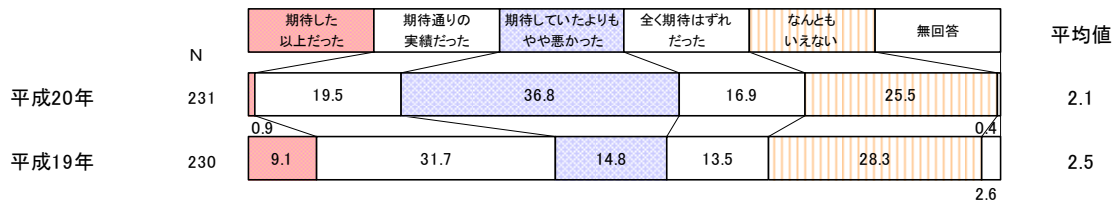
年代別にみると、“期待以上”は30代や60代が高く、50代が最も低い。30代は「期待していたよりもやや悪かった」が高い一方、「全く期待はずれだった」は低くなっている。

年収別では、“期待以上”は500万円以上800万円未満の層では高い。また、年収が低いほど「なんともいえない」が高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では大きな差はみられない。

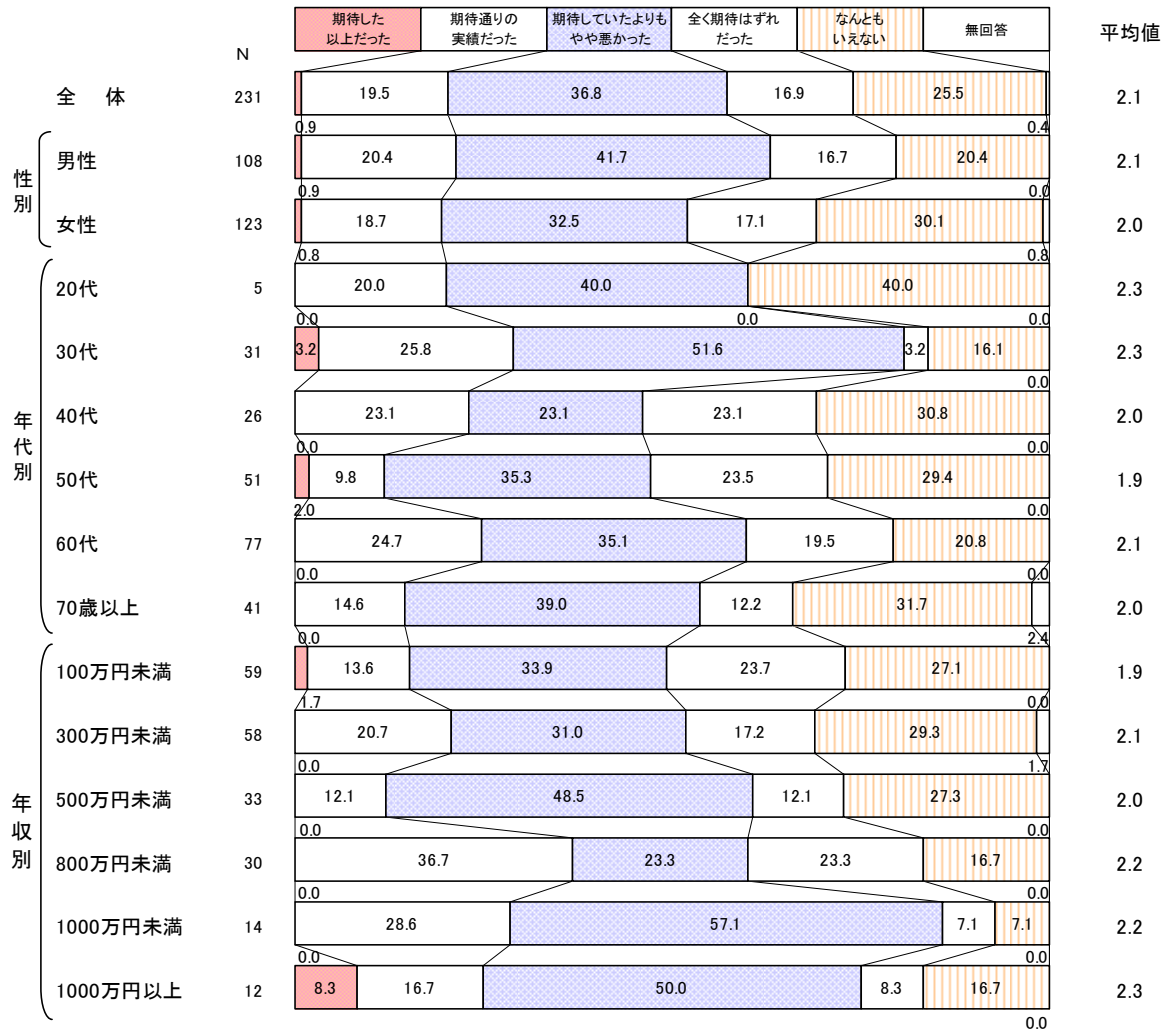
投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層は「期待していたよりもやや悪かった」が43.1%で最も高いが、その他投資信託保有層は「期待していたよりもやや悪かった」と「全く期待はずれだった」が同率(ともに25.8%)となっている。

【投資信託の運用実績評価(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の運用実績評価(単数回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

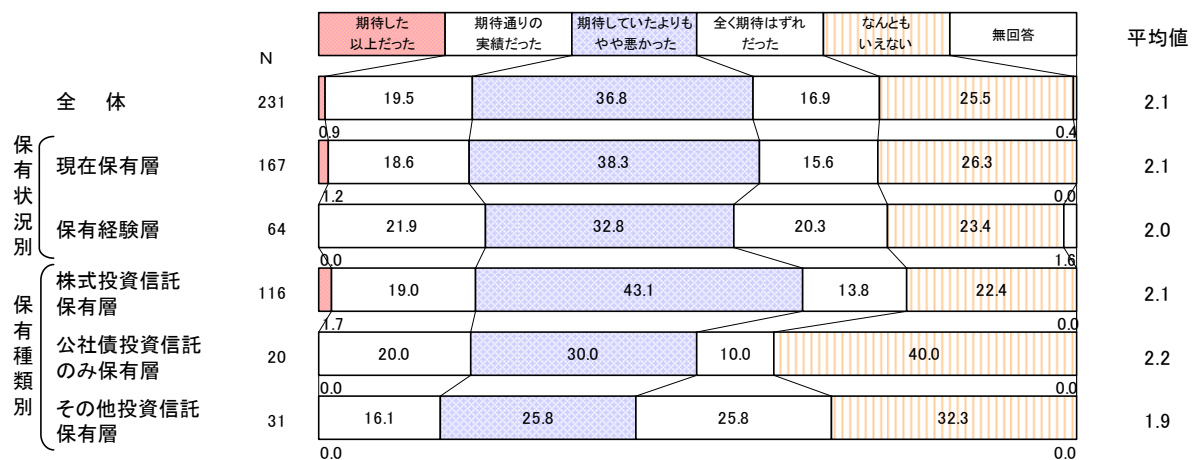
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の運用実績評価(単数回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(8) 償還・売却資金の流出先

投資信託の償還あるいは売却した資金の流出先は、「預貯金にまわした」が42.9%で最も高く、次いで「生活資金にまわした」(23.4%)、「他の投資信託を購入した」(19.0%)、「株式・債券を購入した」(11.7%)の順となっている。

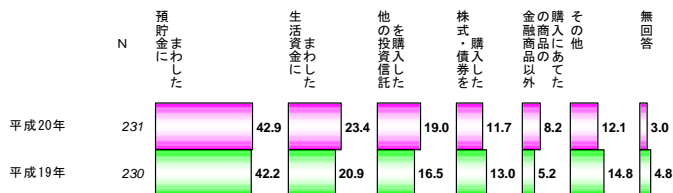
前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別でみると、「預貯金にまわした」率は男性より女性の方が高い。また、「他の投資信託を購入した」「株式・債券を購入した」は男性で高い。

年代別にみると、「生活資金にまわした」は50代以上では低く、60代以上では「株式・債券を購入した」がやや高くなっている。

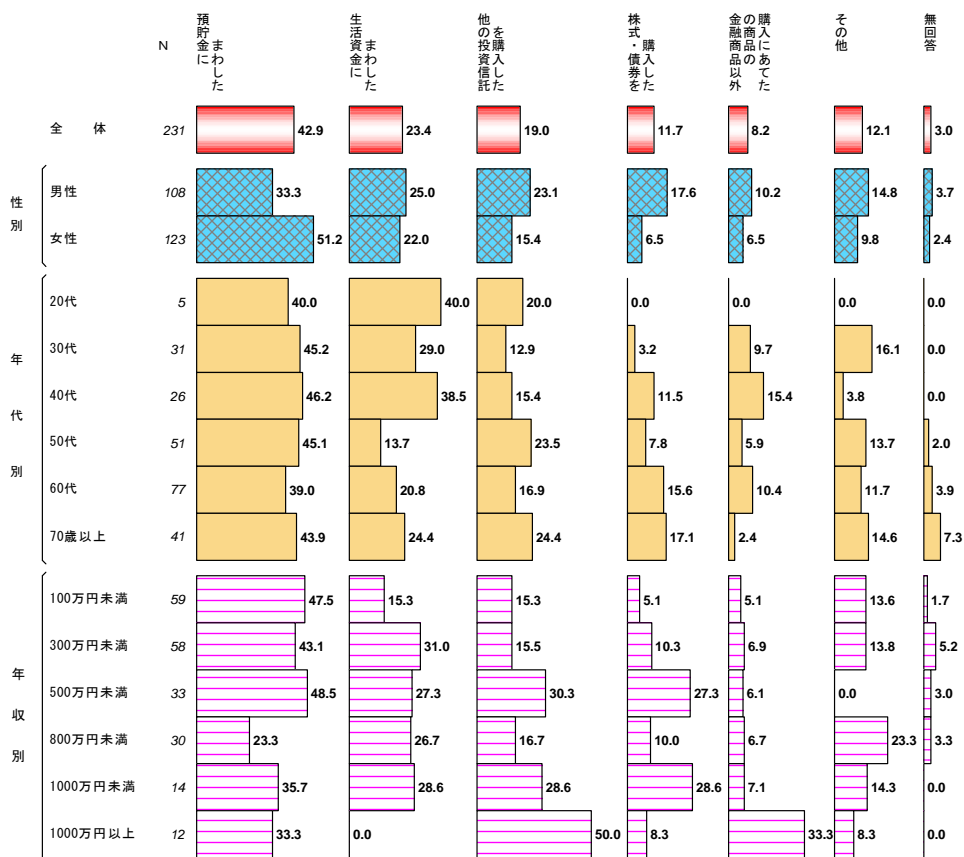
年収別では、「500万円未満」の層はそれ以上の層に比べ「預貯金にまわした」が高い。「生活資金にまわした」は100万円未満の層では低い。

【償還・売却資金の流出先(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【償還・売却資金の流出先(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



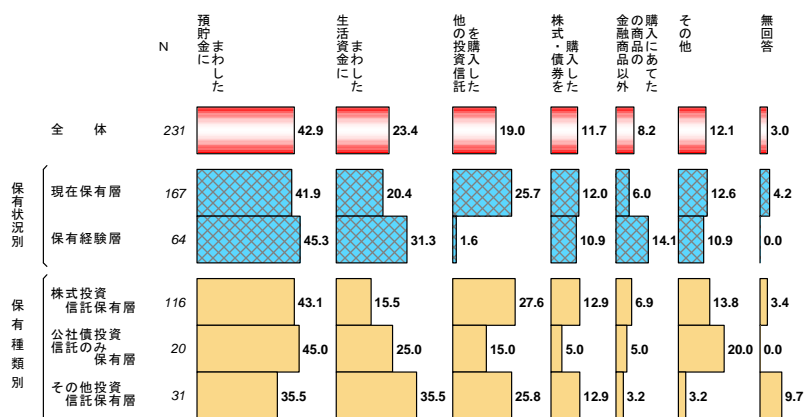
投資信託保有状況別にみると、「他の投資信託を購入した」は現在保有層では 25.7%みられるが、保有経験層ではほとんどみられない。また、「生活資金にまわした」「金融商品以外の商品の購入にあてた」は保有経験層で高い。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層では「預貯金にまわした」が最も高いが、その他投資信託保有層では「預貯金にまわした」と「生活資金にまわした」が同率で最も高い。

【償還・売却資金の流出先(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(9) 目論見書閱讀状況

① 目論見書閱讀経験

目論見書の閱讀経験については、「全部読んだ」が3.9%、「必要と思われる項目を読んだ」が34.2%であり、両者を合わせた“閱讀経験率”は38.1%である。これに対し、「あまり読まなかった」は61.0%と過半数を占め、“閱讀経験率”を大きく上回る。

対象者属性別については、“閱讀経験率”は女性より男性の方が高いが、男性でも46.3%と50%を下回る。

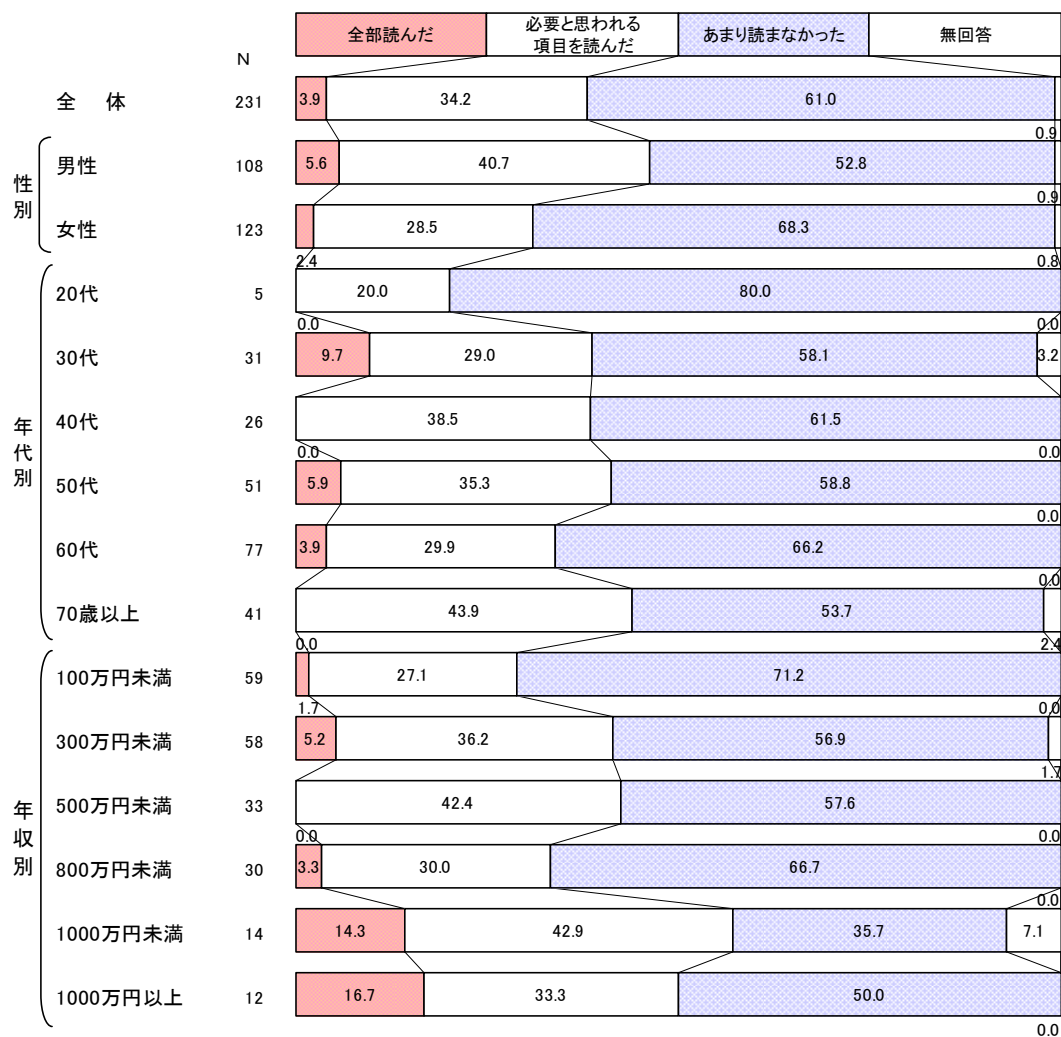
年代別では“閱讀経験率”は60代でやや低い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は保有経験層より“閱讀経験率”が高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は“閱讀経験率”がやや高い。

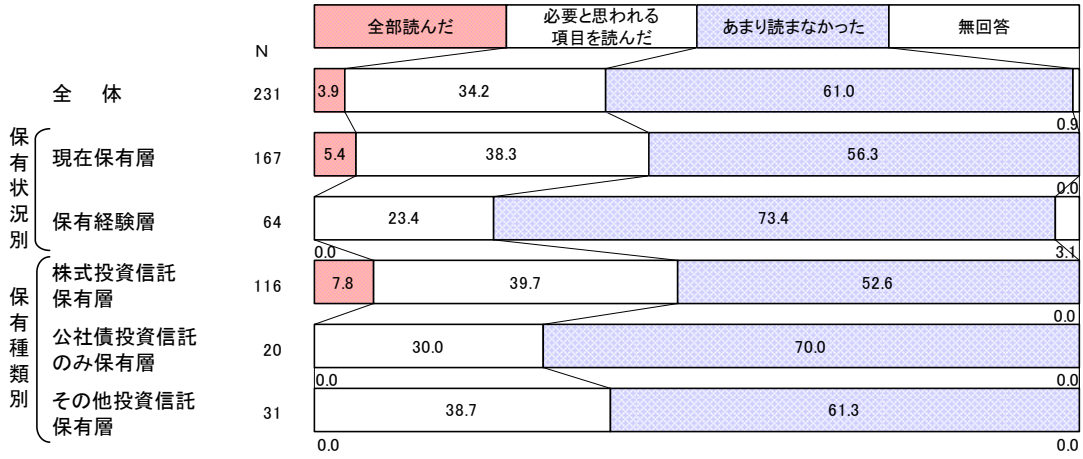
【目論見書閱讀経験(単数回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【目論見書閱讀経験(単数回答)／保有状況・保有種類別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②目論見書閲読項目(現在保有層・保有経験層のうち目論見書一部閲読者)

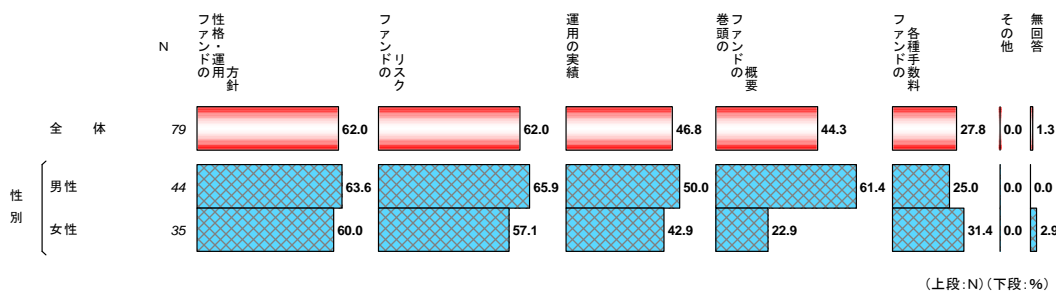
目論見書の「必要と思われる項目を読んだ」人に対し、読んだ項目を尋ねたところ、「ファンドの性格・運用方針」「ファンドのリスク」(ともに62.0%)が最も高く、次いで「運用の実績」(46.8%)や「巻頭のファンドの概要」(44.3%)なども比較的よく読まれている。一方、「ファンドの各種手数料」は27.8%にとどまっている。

対象者属性別にみると、性別では「ファンドのリスク」「運用の実績」「巻頭のファンドの概要」など、女性に比べ男性の方がいろいろな項目を閲読している。

【目論見書閲読項目(重複回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書一部閲読者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



		全体	ファンドの性格・運用方針	ファンドのリスク	運用の実績	巻頭のファンドの概要	ファンドの各種手数料	その他	無回答
年代別	20代	1	1	1	1	1	-	-	-
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
	30代	9	6	4	5	4	1	-	-
		100.0	66.7	44.4	55.6	44.4	11.1	-	-
	40代	10	7	7	5	5	4	-	-
		100.0	70.0	70.0	50.0	50.0	40.0	-	-
	50代	18	8	8	12	9	5	-	-
	100.0	44.4	44.4	66.7	50.0	27.8	-	-	
60代	23	15	15	8	8	6	-	-	
	100.0	65.2	65.2	34.8	34.8	26.1	-	-	
70歳以上	18	12	14	6	8	6	-	1	
	100.0	66.7	77.8	33.3	44.4	33.3	-	5.6	
年収別	100万円未満	16	10	9	6	5	6	-	-
		100.0	62.5	56.3	37.5	31.3	37.5	-	-
	300万円未満	21	11	12	9	8	3	-	1
		100.0	52.4	57.1	42.9	38.1	14.3	-	4.8
	500万円未満	14	12	9	7	8	3	-	-
		100.0	85.7	64.3	50.0	57.1	21.4	-	-
	800万円未満	9	7	4	5	4	1	-	-
	100.0	77.8	44.4	55.6	44.4	11.1	-	-	
1000万円未満	6	2	5	3	5	3	-	-	
	100.0	33.3	83.3	50.0	83.3	50.0	-	-	
1000万円以上	4	3	3	3	2	3	-	-	
	100.0	75.0	75.0	75.0	50.0	75.0	-	-	

【目論見書閲読項目(重複回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書一部閲読者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		全体	ファンドの性格・運用方針	ファンドのリスク	運用の実績	巻頭のファンドの概要	ファンドの各種手数料	その他	無回答
全体		79	49	49	37	35	22	-	1
		100.0	62.0	62.0	46.8	44.3	27.8	-	1.3
保有状況別	現在保有層	64	42	39	30	26	19	-	1
		100.0	65.6	60.9	46.9	40.6	29.7	-	1.6
	保有経験層	15	7	10	7	9	3	-	-
		100.0	46.7	66.7	46.7	60.0	20.0	-	-
保有種類別	株式投資信託	46	29	29	23	19	15	-	-
	保有層	100.0	63.0	63.0	50.0	41.3	32.6	-	-
	公社債投資信託のみ保有層	6	5	4	2	1	1	-	-
		100.0	83.3	66.7	33.3	16.7	16.7	-	-
その他投資信託	12	8	6	5	6	3	-	1	
	100.0	66.7	50.0	41.7	50.0	25.0	-	8.3	

③目論見書未読理由(現在保有層・保有経験層のうち目論見書非朗読者)

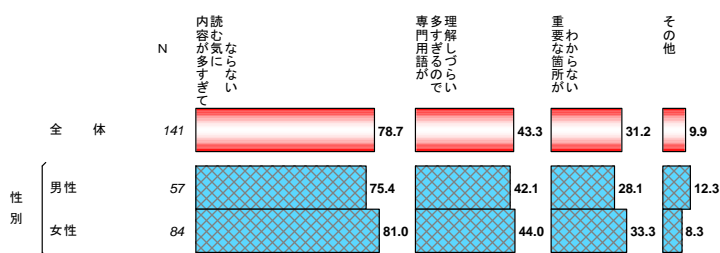
目論見書を「あまり読まなかつた」人に対し、その理由を尋ねたところ、「内容が多すぎて読む気にならない」が78.7%と特に高く、「専門用語が多すぎるので理解しづらゐ」は43.3%、「重要な箇所がわからない」は31.2%みられる。

投資信託保有状況別については、「内容が多すぎて読む気にならない」「重要な箇所がわからない」は現在保有層の方が割合が高い。

【目論見書未読理由(重複回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書非朗読者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



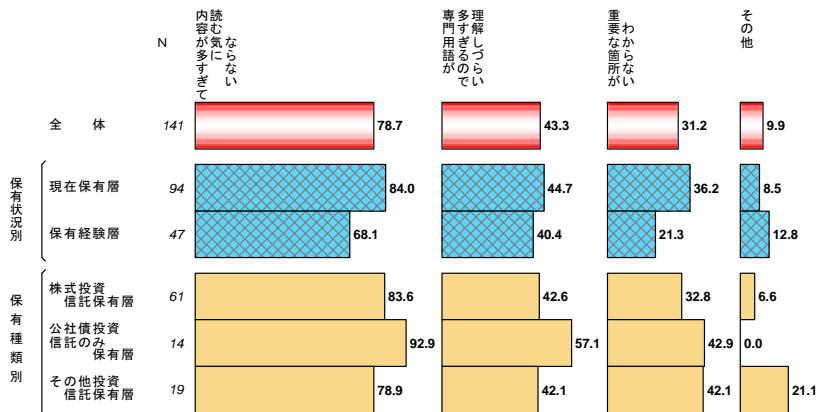
(上段:N)(下段:%)

		全体	内容が多すぎて読む気にならない	専門用語が多すぎるので理解しづらゐ	重要な箇所がわからない	その他
年代別	20代	4	4	1	1	-
		100.0	100.0	25.0	25.0	-
	30代	18	13	12	7	1
		100.0	72.2	66.7	38.9	5.6
	40代	16	13	5	3	2
		100.0	81.3	31.3	18.8	12.5
	50代	30	26	15	13	2
	100.0	86.7	50.0	43.3	6.7	
60代	51	43	19	14	5	
	100.0	84.3	37.3	27.5	9.8	
70歳以上	22	12	9	6	4	
	100.0	54.5	40.9	27.3	18.2	
年収別	100万円未満	42	32	23	12	4
		100.0	76.2	54.8	28.6	9.5
	300万円未満	33	24	13	15	3
		100.0	72.7	39.4	45.5	9.1
	500万円未満	19	17	5	5	2
		100.0	89.5	26.3	26.3	10.5
	800万円未満	20	15	13	7	-
	100.0	75.0	65.0	35.0	-	
1000万円未満	5	3	1	-	2	
	100.0	60.0	20.0	-	40.0	
1000万円以上	6	6	1	2	1	
	100.0	100.0	16.7	33.3	16.7	

【目論見書未読理由(重複回答)／保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層のうち目論見書非読者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



④目論見書の適当な分量

購入の際交付される目論見書の分量については、「8ページ以下」が62.3%と過半数に支持されている。次いで「9～16ページ程度」が16.9%であり、全般的により少ないボリュームが望まれている。なお、「読んだことがないのでわからない」も15.2%みられる。

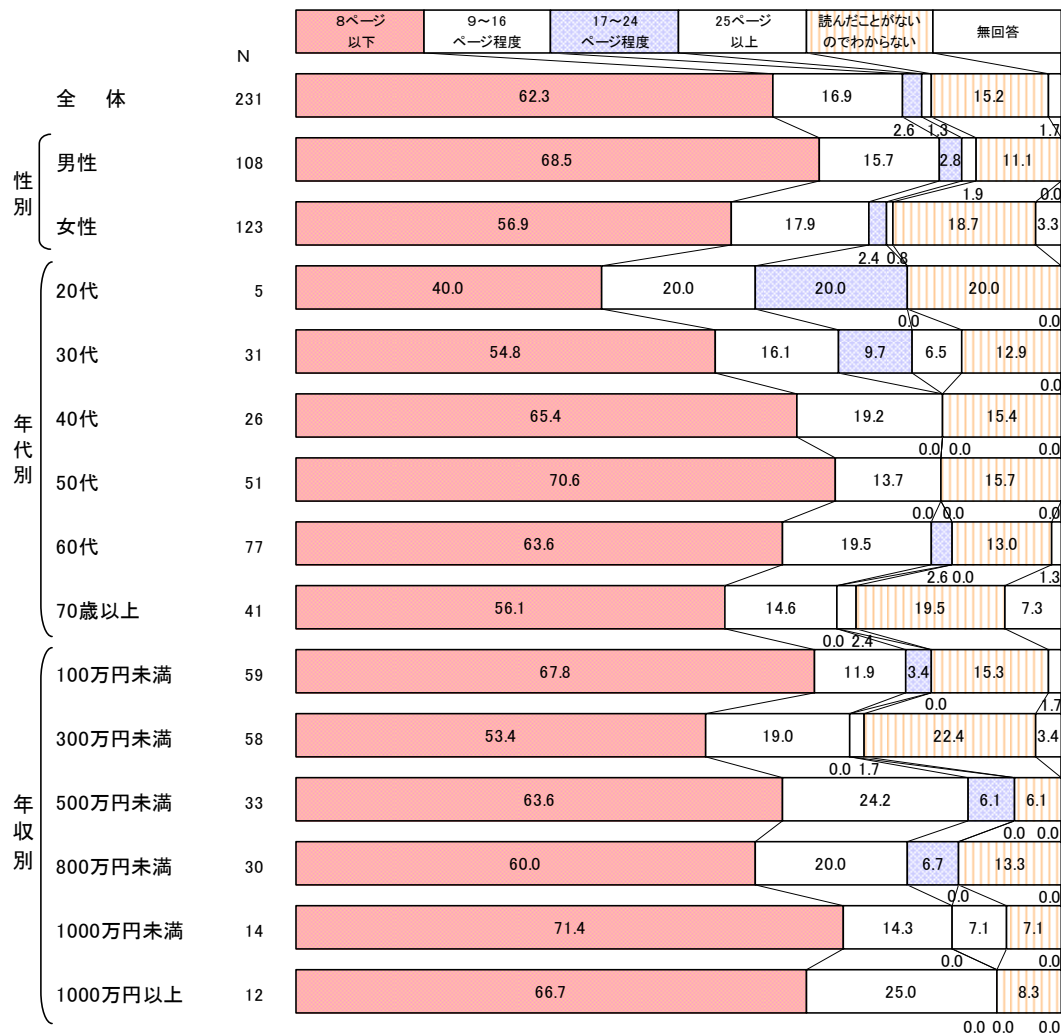
対象者属性別については、性別では女性より男性の方が「8ページ以下」が高い。

年代別については、「8ページ以下」は50代で最も高く、以降は年代が上がるにつれ低くなっている。また、70歳以上では「読んだことがないのでわからない」が高くなっている。

投資信託保有種類別では、その他投資信託保有層で「読んだことがないのでわからない」が高い。

【目論見書の適当な分量(単数回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

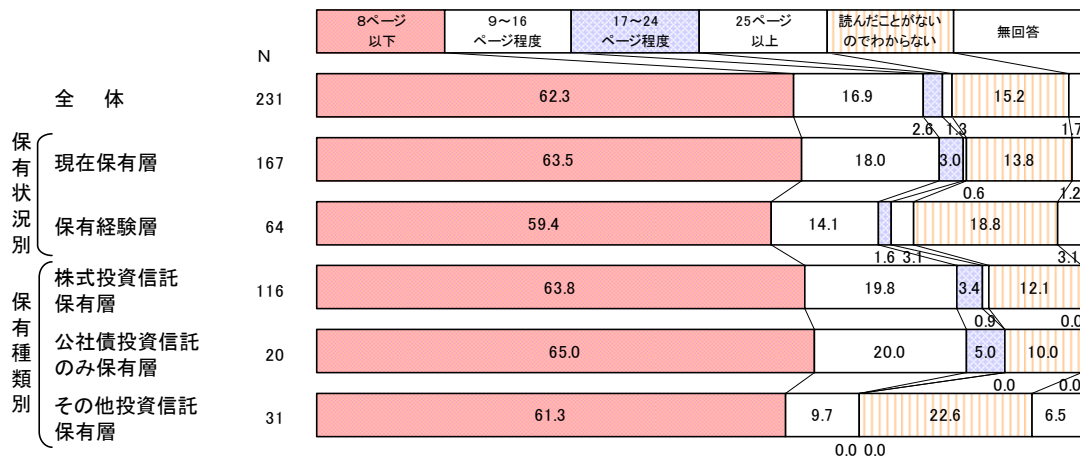
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【目論見書の適当な分量(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(10) 運用報告書閲読状況

① 運用報告書閲読経験

運用報告書の閲読経験については、「読んだことがある」(＝閲読経験率)が 63.6%と過半数を占め、「読んだことはない」は 36.4%となっている。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

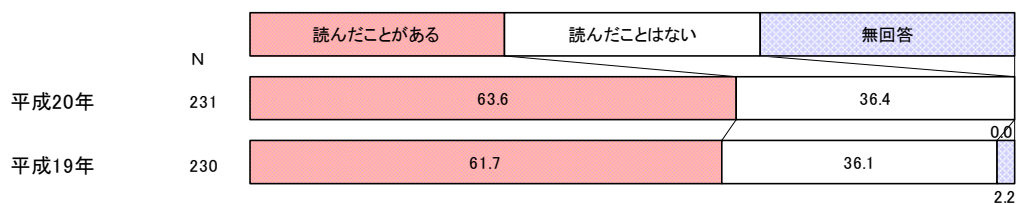
対象者属性別については、閲読経験率は性別では女性より男性の方が高い。

年収別では、閲読経験率は“300万円未満”の層に比べ、それ以上の層の方が高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層の方が保有経験層より閲読経験率が高い。

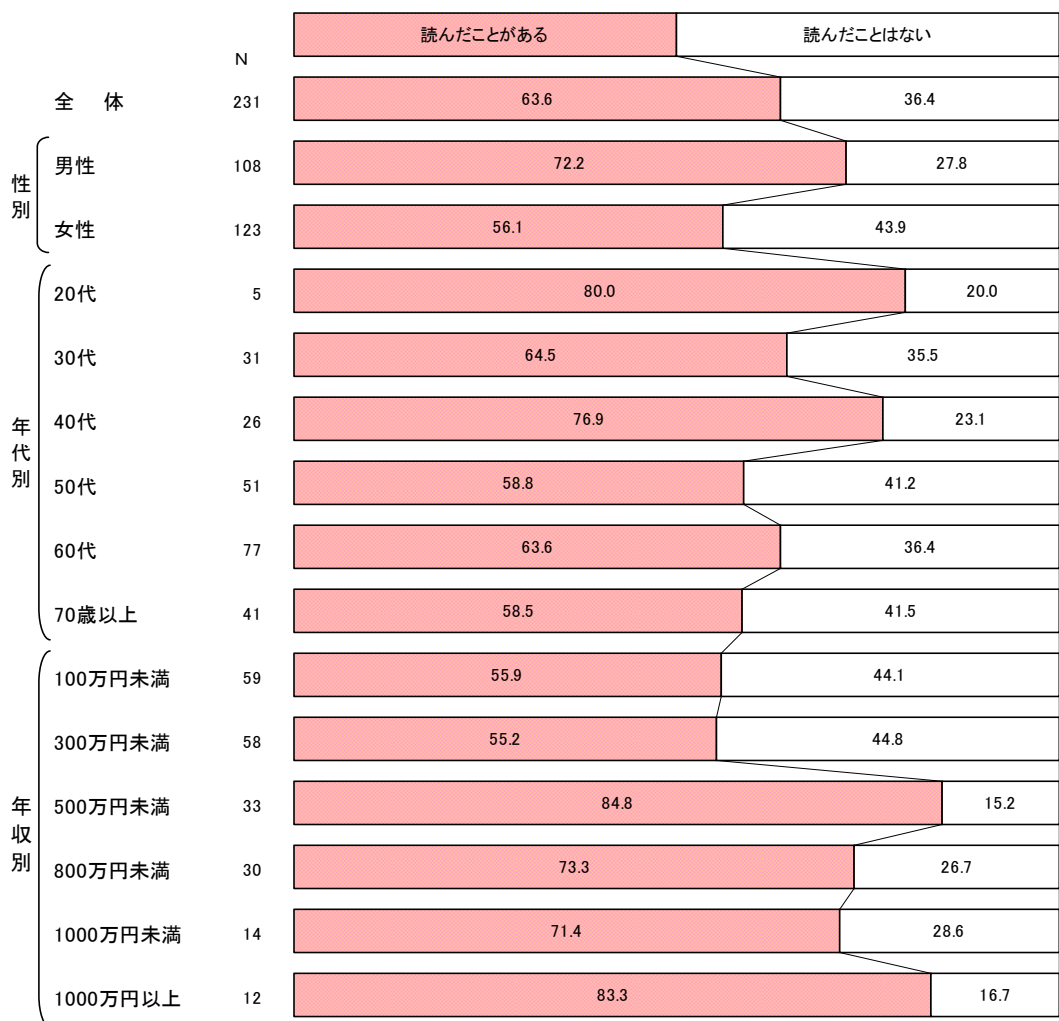
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は閲読経験率が 80%弱と高くなっている。

【運用報告書閲読経験(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



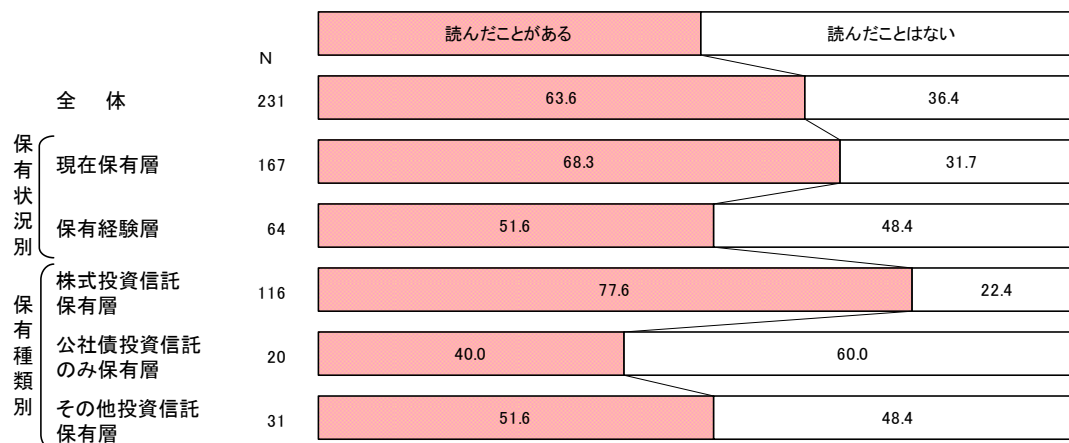
【運用報告書閲読経験(単数回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【運用報告書閲読経験(単数回答)／保有状況・保有種類別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②運用報告書理解状況(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読経験者)

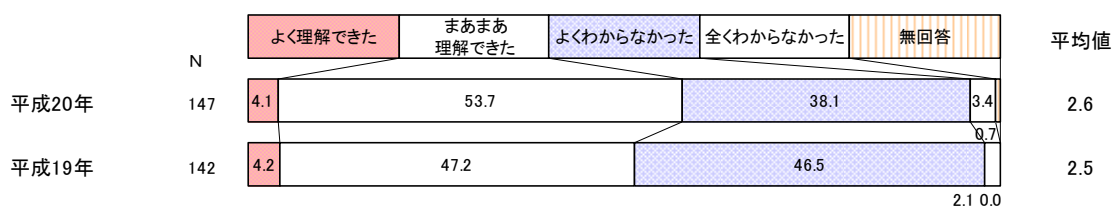
運用報告書閲読経験者に運用報告書の理解状況を尋ねたところ、「よく理解できた」(4.1%)と「まあまあ理解できた」(53.7%)を合わせた“理解層”は57.8%、「よくわからなかった」(38.1%)と「全くわからなかった」(3.4%)を合わせた“非理解層”は41.5%であり、“理解層”が“非理解層”をやや上回っている。

前回調査と比べると、“理解層”がやや上昇、“非理解層”がやや低下している。

対象者属性別については、性別では“理解層”は女性より男性の方が高い。

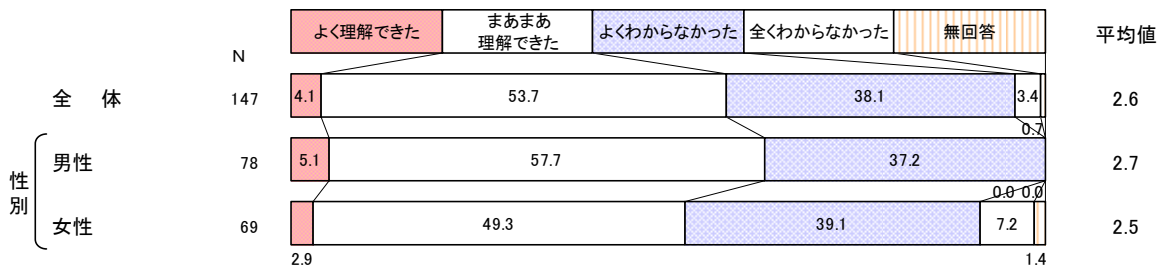
投資信託保有状況別については、保有経験層は現在保有層に比べ“理解層”が高い。

【運用報告書理解状況(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



【運用報告書理解状況(単数回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



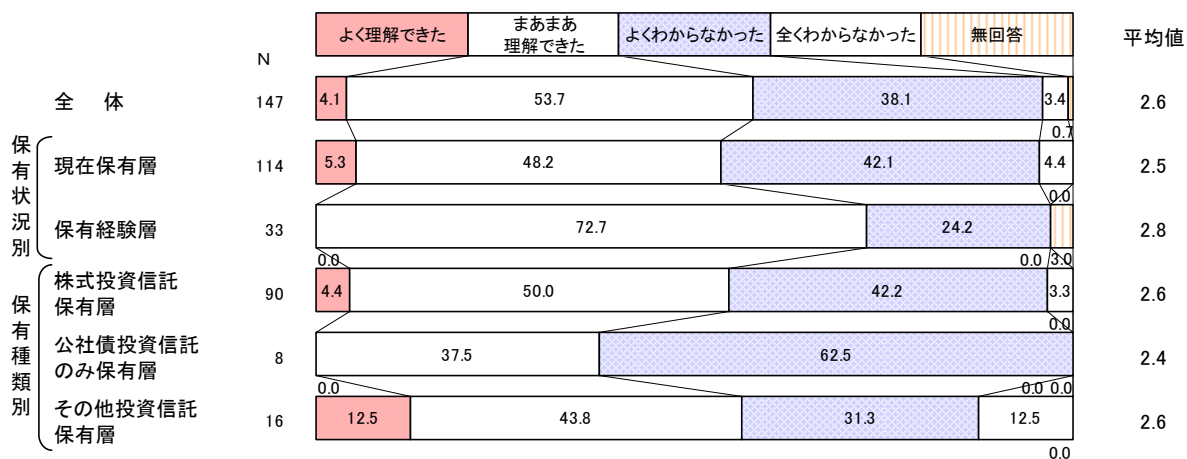
(上段:N)(下段:%)

		全体	よく理解できた	まあまあ理解できた	よくわからなかった	全くわからなかった	無回答	平均値
年代別	20代	4	-	1	3	-	-	
		100.0	-	25.0	75.0	-	-	2.3
	30代	20	1	9	8	2	-	
		100.0	5.0	45.0	40.0	10.0	-	2.5
	40代	20	1	9	10	-	-	
		100.0	5.0	45.0	50.0	-	-	2.6
	50代	30	1	12	17	-	-	
	100.0	3.3	40.0	56.7	-	-	2.5	
年收別	60代	49	2	29	15	3	-	
		100.0	4.1	59.2	30.6	6.1	-	2.6
	70歳以上	24	1	19	3	-	1	
		100.0	4.2	79.2	12.5	-	4.2	2.9
年収別	100万円未満	33	2	15	14	2	-	
		100.0	6.1	45.5	42.4	6.1	-	2.5
	300万円未満	32	1	19	10	2	-	
		100.0	3.1	59.4	31.3	6.3	-	2.6
	500万円未満	28	2	15	10	1	-	
		100.0	7.1	53.6	35.7	3.6	-	2.6
年収別	800万円未満	22	-	11	11	-	-	
		100.0	-	50.0	50.0	-	-	2.5
	1000万円未満	10	1	9	-	-	-	
		100.0	10.0	90.0	-	-	-	3.1
1000万円以上	10	-	5	5	-	-		
	100.0	-	50.0	50.0	-	-	2.5	

【運用報告書理解状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③運用報告書未読理由(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者)

運用報告書閱讀未経験者に、読んだことがない理由を尋ねたところ、「特に興味もなかったの
で」(48.8%)と「難しそうだったので」(41.7%)が特に高く、「発行されていることも知らな
かった」は9.5%と低い。

前回調査と比べると、「特に興味もなかったの
で」が前回よりやや上昇し、「難しそうだった
の
で」はやや低下した結果、両者の順位が入れ替わっている。

【運用報告書未読理由(単数回答) /時系列】

—現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース】

	N	難しそうだったので	特に興味も なかったの で	発行されて いること も知らな かった	無回答
平成20年	84	41.7	48.8	9.5	0.0
平成19年	83	49.4	37.3	12.0	1.2

【運用報告書未読理由(単数回答) /対象者属性別】

—現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	難しそうだったので	特に興味も なかったの で	発行されて いること も知らな かった
全体	84	41.7	48.8	9.5
男性	30	36.7	53.3	10.0
女性	54	44.4	46.3	9.3

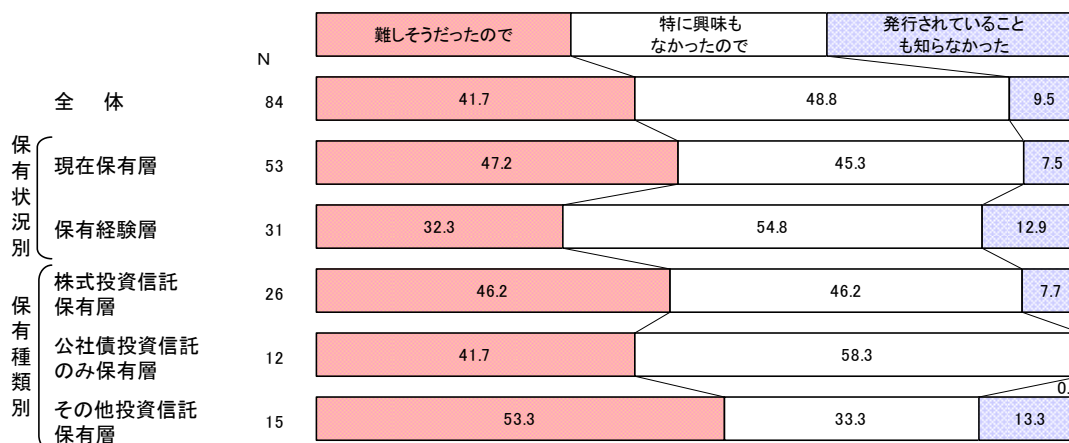
(上段:N)(下段:%)

		全体	難しそう だったので	特に興味も なかったの で	発行されて いること も知らな かった
年代別	20代	1	-	1	-
		100.0	-	100.0	-
	30代	11	5	4	2
		100.0	45.5	36.4	18.2
	40代	6	2	2	2
		100.0	33.3	33.3	33.3
	50代	21	10	11	-
	100.0	47.6	52.4	-	
年 取 別	60代	28	10	15	3
		100.0	35.7	53.6	10.7
	70歳以上	17	8	8	1
		100.0	47.1	47.1	5.9
	100万円未満	26	13	12	1
	100.0	50.0	46.2	3.8	
年 取 別	300万円未満	26	11	13	2
		100.0	42.3	50.0	7.7
	500万円未満	5	1	3	1
		100.0	20.0	60.0	20.0
	800万円未満	8	3	3	2
		100.0	37.5	37.5	25.0
	1000万円未満	4	2	2	-
	100.0	50.0	50.0	-	
年 取 別	1000万円以上	2	1	1	-
		100.0	50.0	50.0	-

【運用報告書未読理由(単数回答) / 保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読読未経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(11) 評価会社による運用評価の認知・利用状況

評価会社による運用評価については、「評価会社の評価を参考に購入経験あり」は3.9%のみであるが、「評価会社の評価を見たことがある」は39.4%であり、両者を合わせた“認知率”は43.3%である。一方、「評価会社があること自体知らなかった」は55.4%と過半数を占めている。

これらは前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では男性で“認知率”がやや高い。

年収別では、年収が高くなるにつれ“認知率”が上がる傾向がみられる。

投資信託保有状況別については、現在保有層と保有経験層では大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、“認知率”は株式投資信託保有層では50%を超えているのに対し、それ以外の保有層では低い。

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／時系列

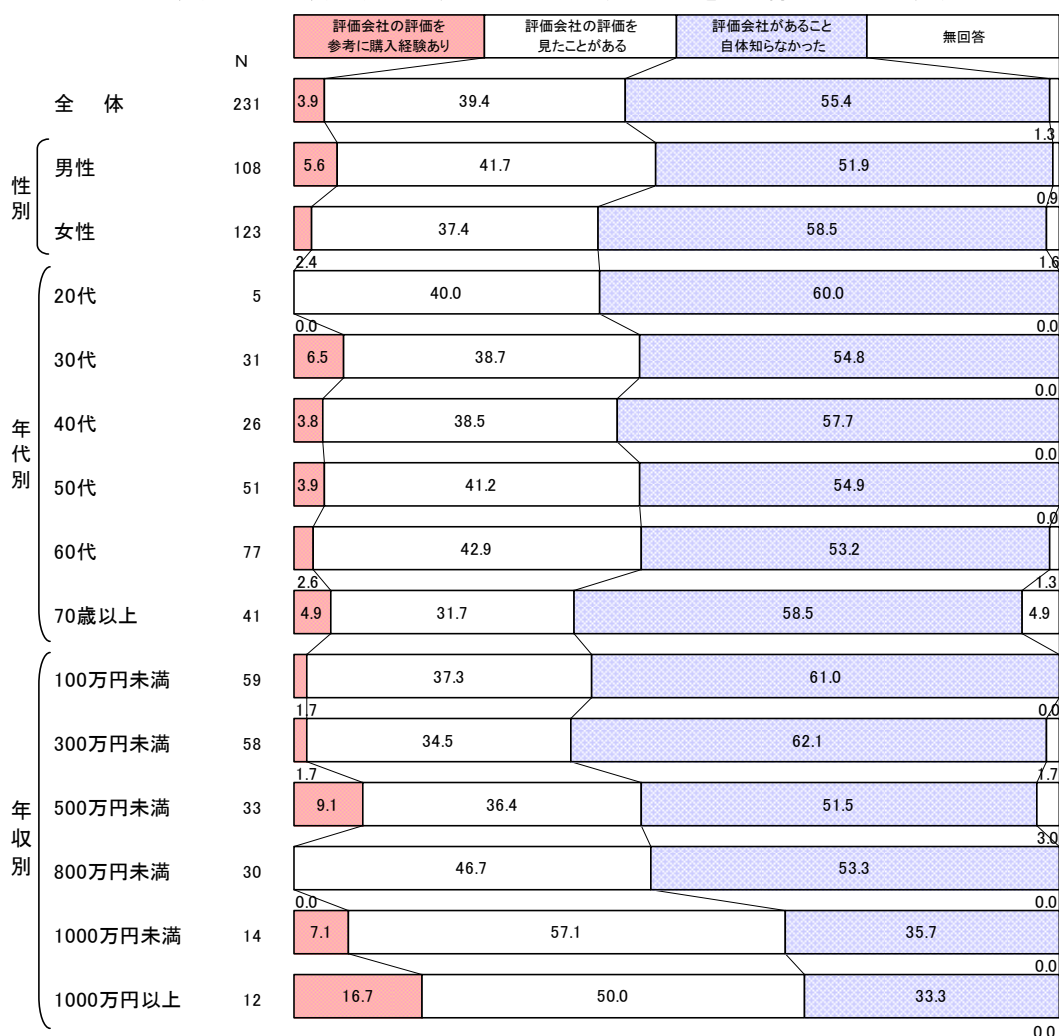
－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	評価会社の評価を参考に購入経験あり	評価会社の評価を見たことがある	評価会社があること自体知らなかった	無回答
平成20年	231	3.9	39.4	55.4	1.3
平成19年	230	5.2	38.3	52.6	3.9

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層ベース

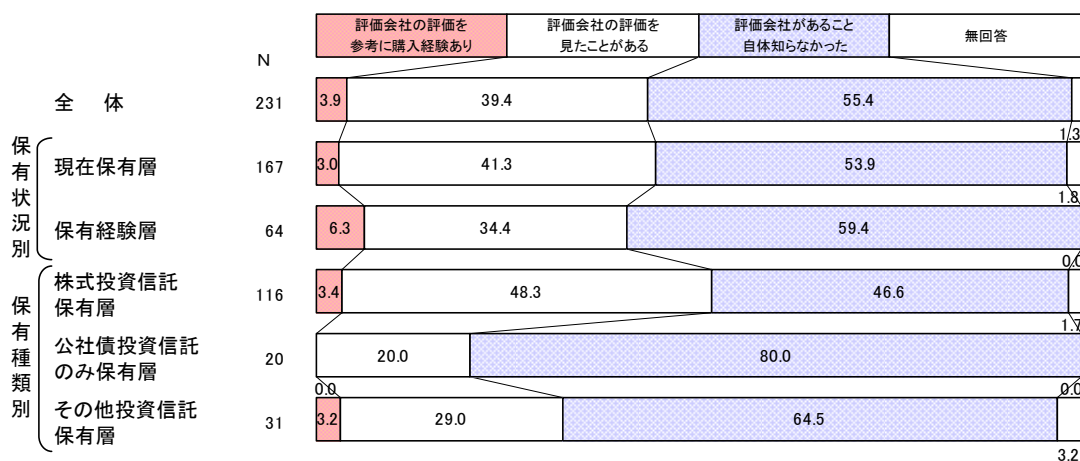
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(12) 投資信託の優れていると感じる点

他の金融商品と比較して投資信託が優れている点(重複回答)は、「専門知識がなくても投資ができる」(52.4%)、「定期的に分配金が受け取れる」(48.9%)、「比較的高い利回りが期待できる」(45.5%)の順に高く、これら3点が主な優位点となっている。次いで、「少額でも株式投資の面白味がある」(34.2%)、「購入手続きが簡単である」(32.9%)が高い。

前回調査と比べると、「定期的に分配金が受け取れる」がやや上昇している。

対象者属性別にみると、性別では「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」は女性の方が、「少額でも株式投資の面白味がある」「購入手続きが簡単である」「種類が豊富で目的に応じて選べる」などは男性の方が高く、男性は女性よりも優れていると感じる点が多い。

年代別では、「比較的高い利回りが期待できる」や「少額でも株式投資の面白味がある」は40代以下で評価が高い。30代では各項目とも比較的高く、特に「積立て投資ができる」は他の年代との差が大きい。

年収別では、「定期的に分配金が受け取れる」は年収が低いほど高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「定期的に分配金が受け取れる」が高く、保有経験層では「少額でも株式投資の面白味がある」が高い。

投資信託保有種類別については、その他投資信託保有層では「海外投資が手軽にできる」が高い。

投資信託が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「定期的に分配金が受け取れる」(23.8%)が最も高く、次いで「比較的高い利回りが期待できる」(19.0%)が高い。重複回答で最も高かった「専門知識がなくても投資ができる」は、単数回答では13.4%で第3位となっている。

前回調査と比べると、「比較的高い利回りが期待できる」が低くなっている。

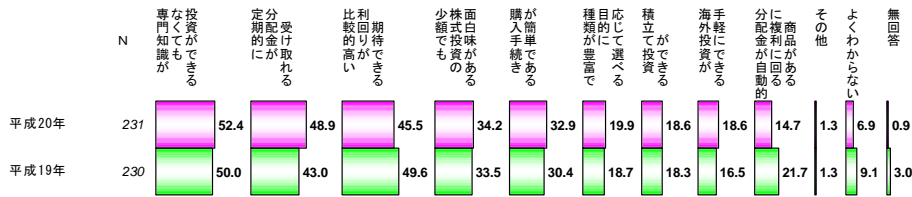
対象者属性別にみると、性別では「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」は女性で高く、「専門知識がなくても投資ができる」「少額でも株式投資の面白味がある」は男性で高い。

年収別では、「定期的に分配金が受け取れる」は年収が低い層ほど高く、「専門知識がなくても投資ができる」は“300万円以上800万円未満”の層で高い。またN数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「少額でも株式投資の面白味がある」は“500万円以上1000万円未満”の層で高くなっている。

投資信託保有状況別では、「定期的に分配金が受け取れる」は現在保有層で高く、「少額でも株式投資の面白味がある」は保有経験層で高い。

投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「定期的に分配金が受け取れる」は株式投資信託保有層で最も高く、公社債投資信託のみ保有層、その他投資信託保有層の順となっている。一方、「専門知識がなくても投資ができる」は株式投資信託保有層が最も低い。また、「購入手続きが簡単である」は公社債投資信託のみ保有層で高い。

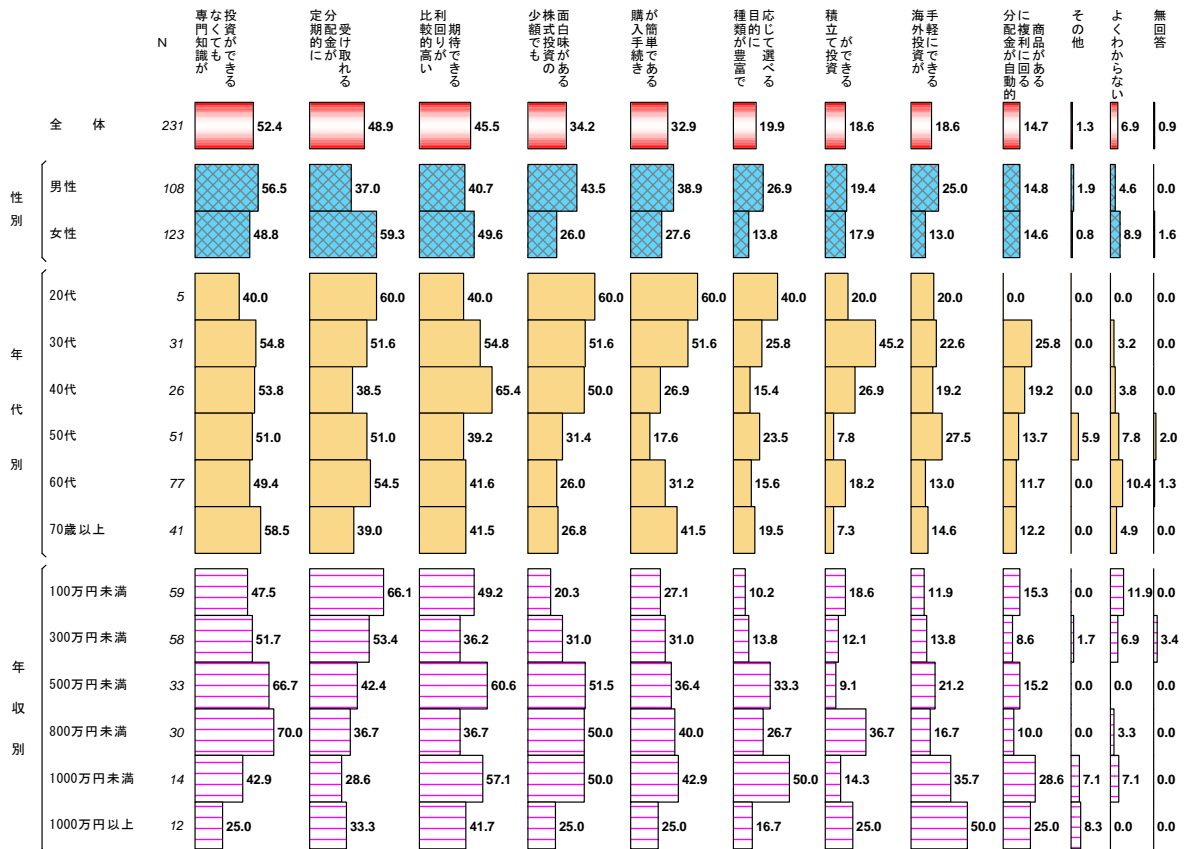
【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース】

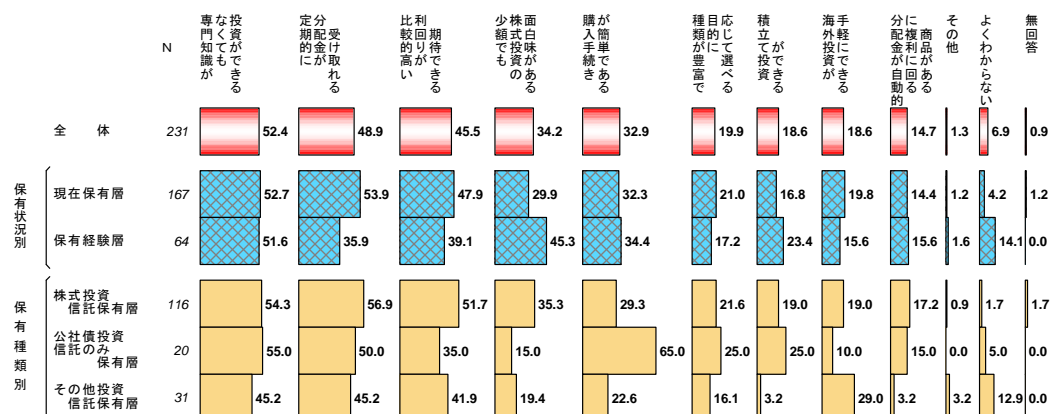
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



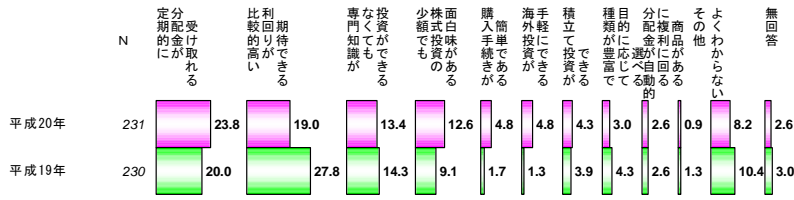
【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の優れていると感じる点(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】

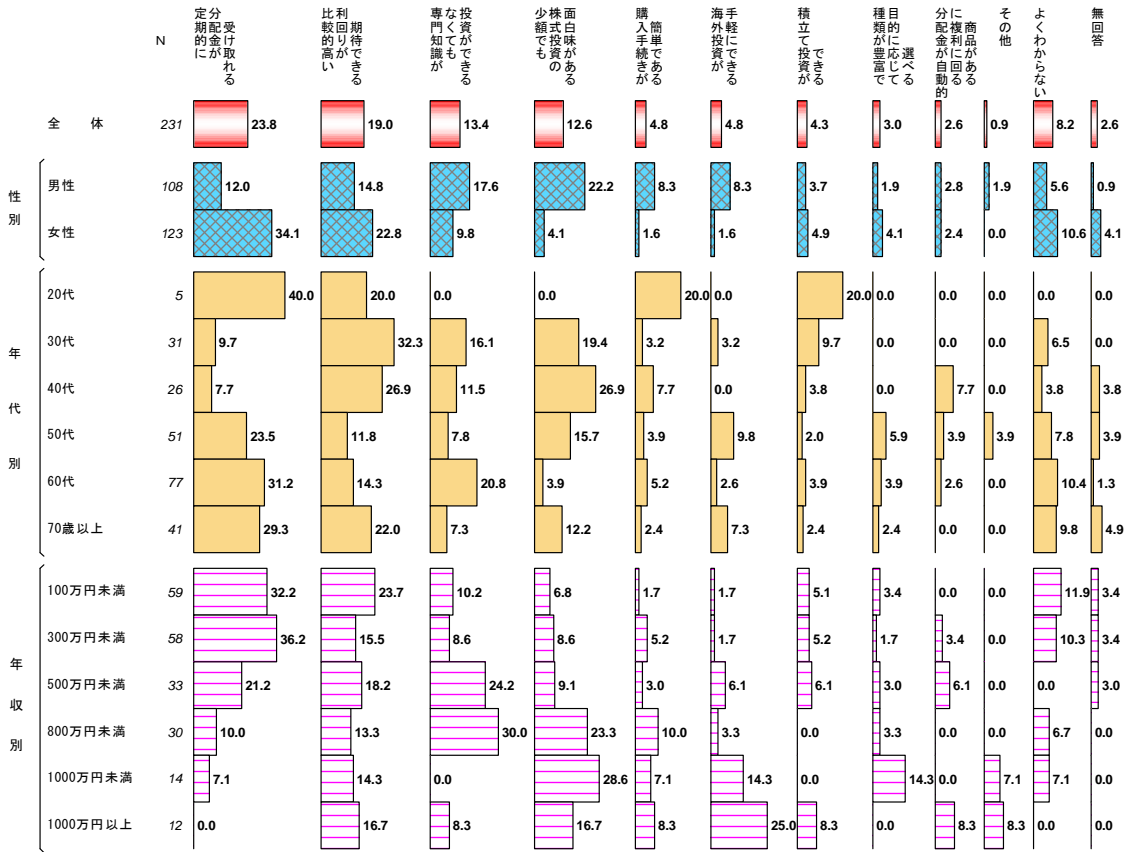


1
っ
だ
け

【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

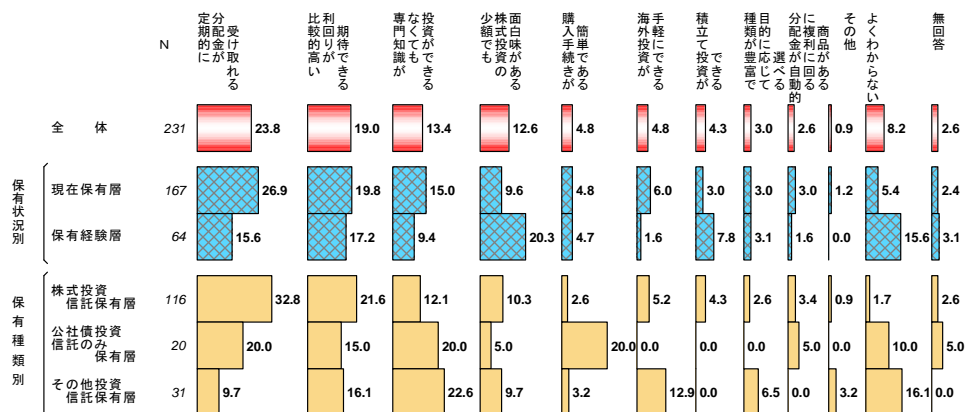


1
っ
だ
け

【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



1
っ
だ
け

(13) 投資信託の不満を感じる点

①対象者属性別・保有状況別の不満を感じる点

投資信託の不満を感じる点(重複回答)は、「元本保証がない」が62.8%で最も高く、次いで「手数料が高い」が42.4%、「運用実績がわかりにくい」が32.5%と続く。

前回調査と比べると、重複回答では「運用実績がわかりにくい」が上昇している。

対象者属性別については、性別では、女性は男性に比べて「元本保証がない」の不満度が高いが、「運用実績がわかりにくい」「利回りがもの足りない」「株式に比べて面白さに欠ける」「購入後の運用に関する情報が少ない」は男性の方が高い。

年代別では、30代は「手数料が高い」が「元本保証がない」を上回り最も高くなっている。

年収別では、「元本保証がない」は年収が低い層ほど高い。「利回りがもの足りない」は年収が高い層ほど高く、500万円以上800万円未満が最も高い。

投資信託保有状況別については、「手数料が高い」は現在保有層の方が高く、「購入後の運用に関する情報が少ない」は保有経験層の方が不満度が高い。

投資信託の不満を感じる点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)でも「元本保証がない」(36.8%)が第1位、「手数料が高い」(16.9%)が第2位となっており、この2項目を合わせると50%を超えている。

前回調査と比べると、「運用実績がわかりにくい」がやや高くなっている。

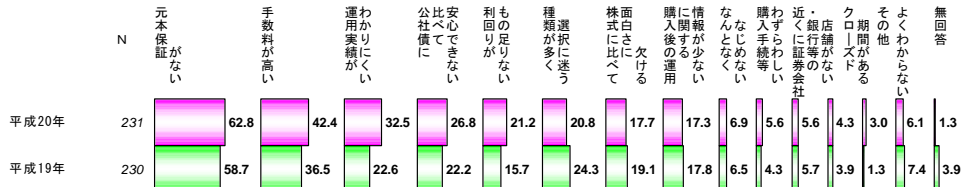
対象者属性別についてみると、性別では、「元本保証がない」は女性で特に高く、男性では「運用実績がわかりにくい」「利回りがもの足りない」などがやや高い。

年収別でみると、「元本保証がない」は年収が高い層ほど低くなる傾向がみられる。「手数料が高い」は“300万円以上800万円未満”の層で高いほか、N数(サンプル数)が少ないため参考データとなるが、1000万円以上の層でも高くなっている。

投資信託保有状況別については、「元本保証がない」は現在保有層に比べ保有経験層の方がやや高く、「手数料が高い」は逆に現在保有層の方が高い。

投資信託保有種類別でみると、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「元本保証がない」「利回りがもの足りない」は公社債投資信託のみ保有層で最も高く、「手数料が高い」は株式投資信託保有層、その他投資信託保有層で高くなっている。

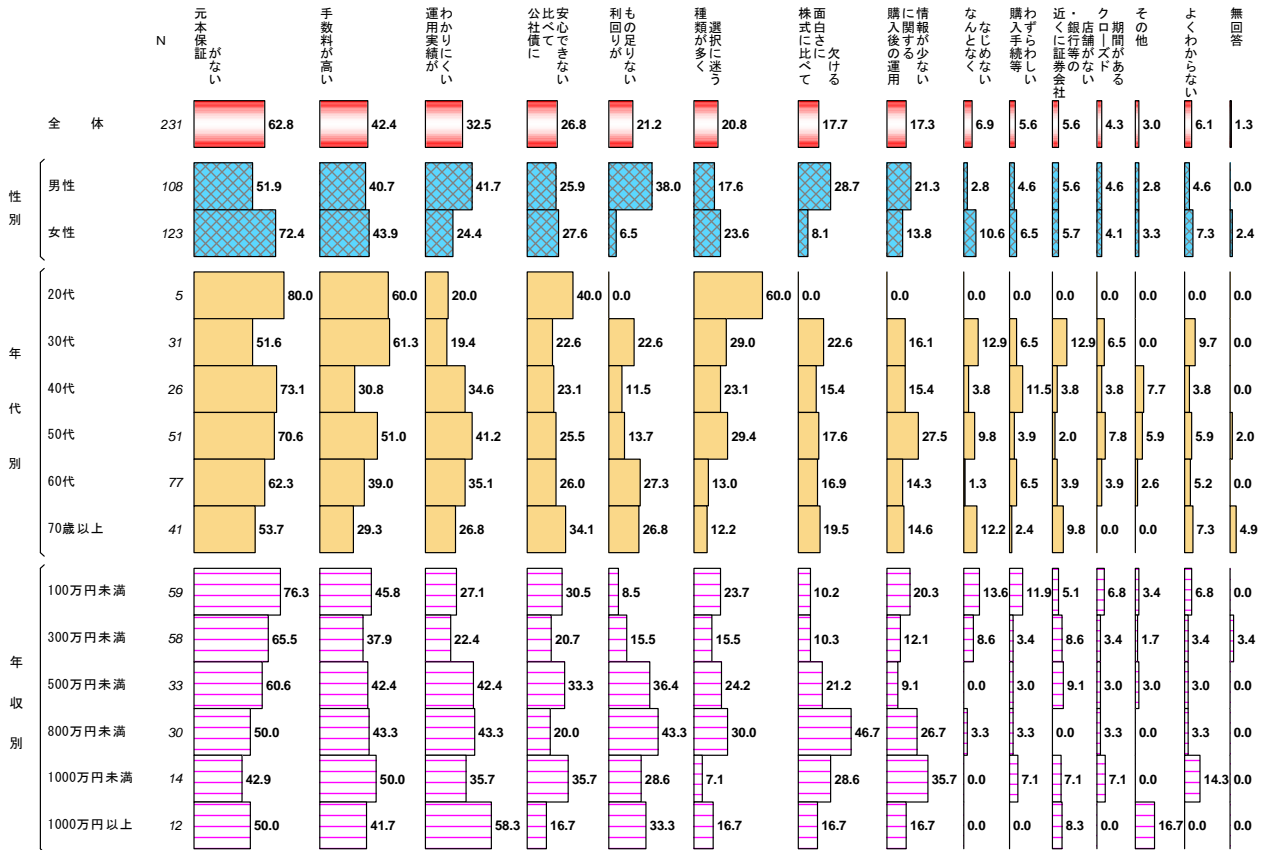
【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース】

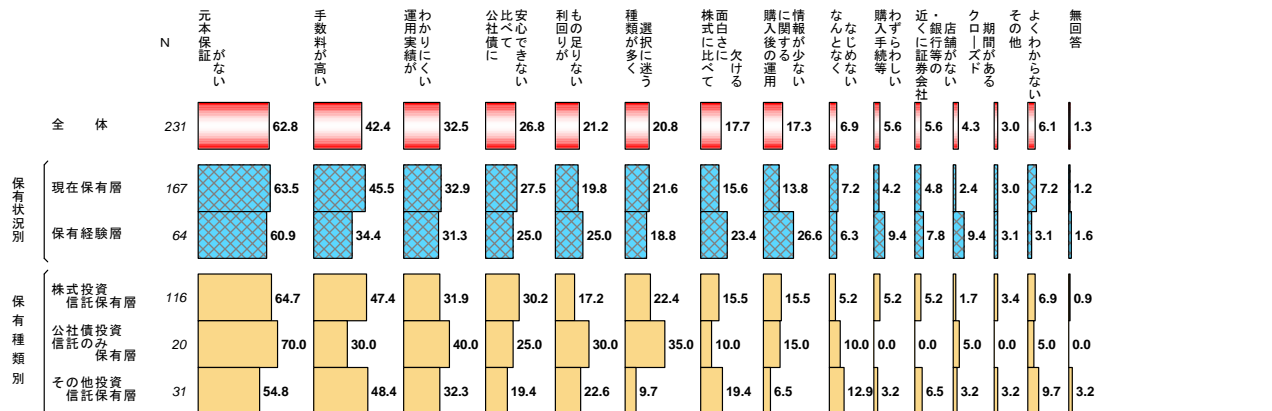
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／保有状況・保有種類別

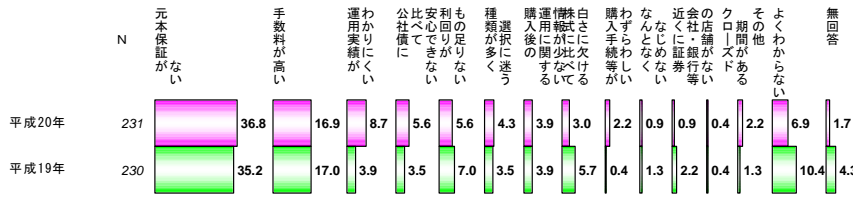
—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】

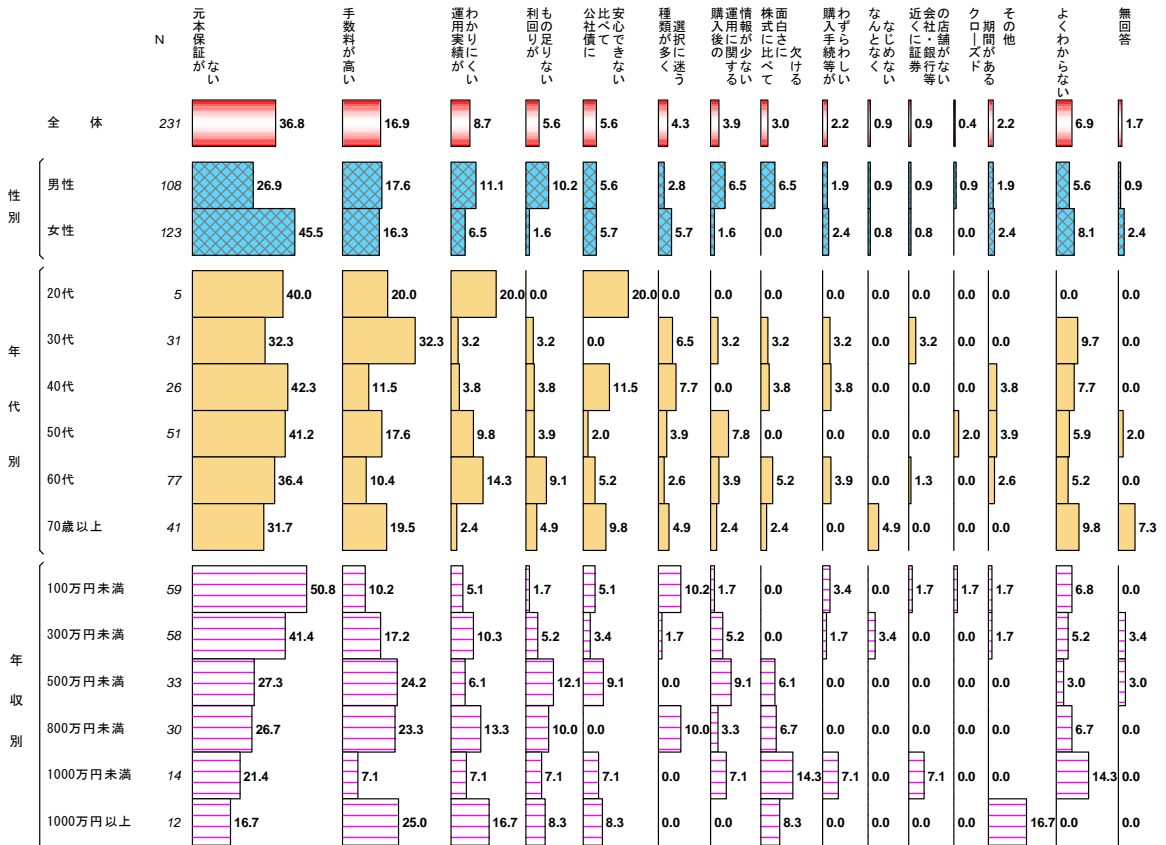
1
つ
だ
け



【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
つ
だ
け

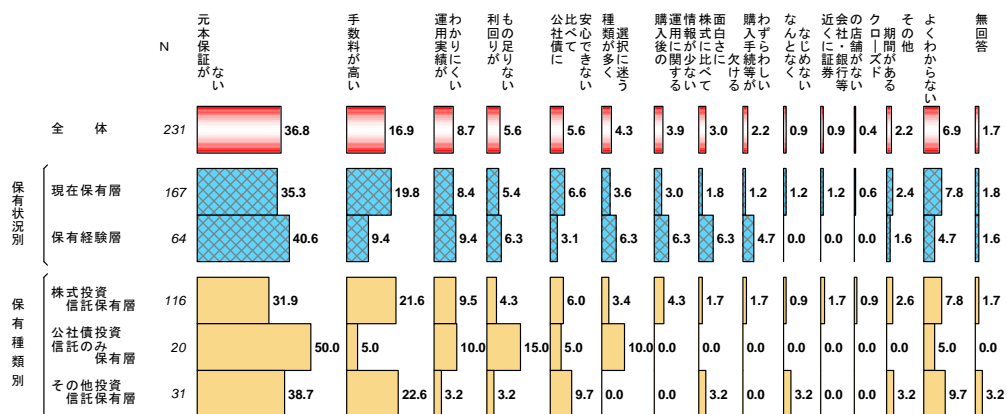


【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
つ
だ
け



②投資信託投資合計額別の不満を感じる点(現在保有層)

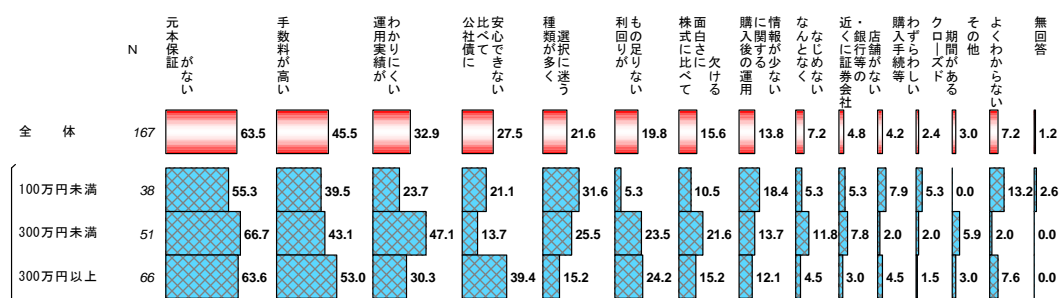
投資信託現在保有層に限定して、投資信託への投資合計額別(11 ページ参照)に、不満点(重複回答・単数回答)をみると、いずれの層でも「元本保証がない」が最も高い。

「手数料が高い」は重複回答では合計投資額が高くなるほどやや高まる傾向がみられる。一方、「種類が多く選択に迷う」は投資合計額が低い層ほど高い傾向がみられ、「利回りがもの足りない」は“100 万円以上”の層で高い。また、「運用実績がわかりにくい」は投資合計額が 100 万円以上 300 万円未満の層で、「公社債に比べて安心できない」は 300 万円以上の層で高くなっている。

なお、特に不満を感じる点(単数回答)をみても、「元本保証がない」が第 1 位、「手数料が高い」が第 2 位となっており、この 2 項目を合わせると 50%を超えている。

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／投資信託投資合計額別—現在保有層ベース】

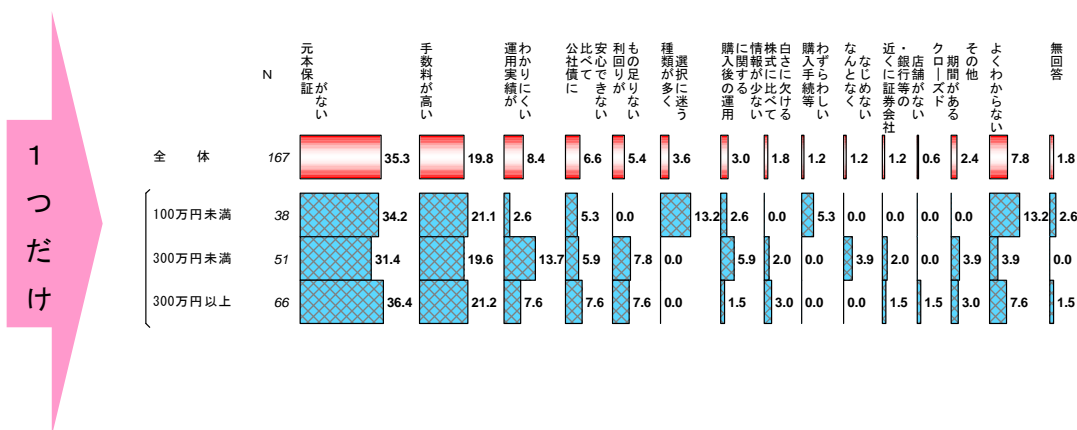
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の特に不満を感じる点(重複回答)／投資信託投資合計額別

—現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



5. 投資信託保有未経験者の状況

(1) 投資信託の購入意向経験

投資信託を認知しているにも関わらず、これまでに投資信託を購入したことがない人に対し、投資信託を購入したいと思ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は9.1%にとどまった。

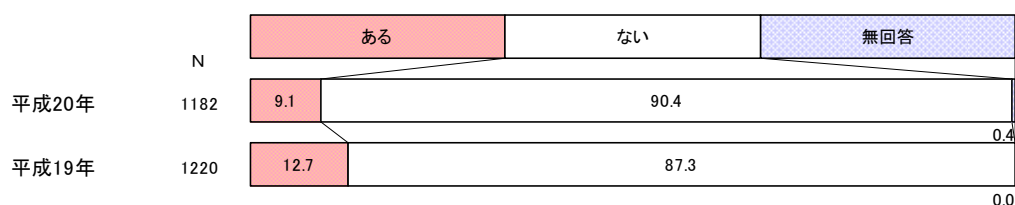
前回調査と比べると、大きな差はみられない。

対象者属性別については、性別では購入意向率に大きな差はみられない。

年代別では、「ある」は50代では最も高い。

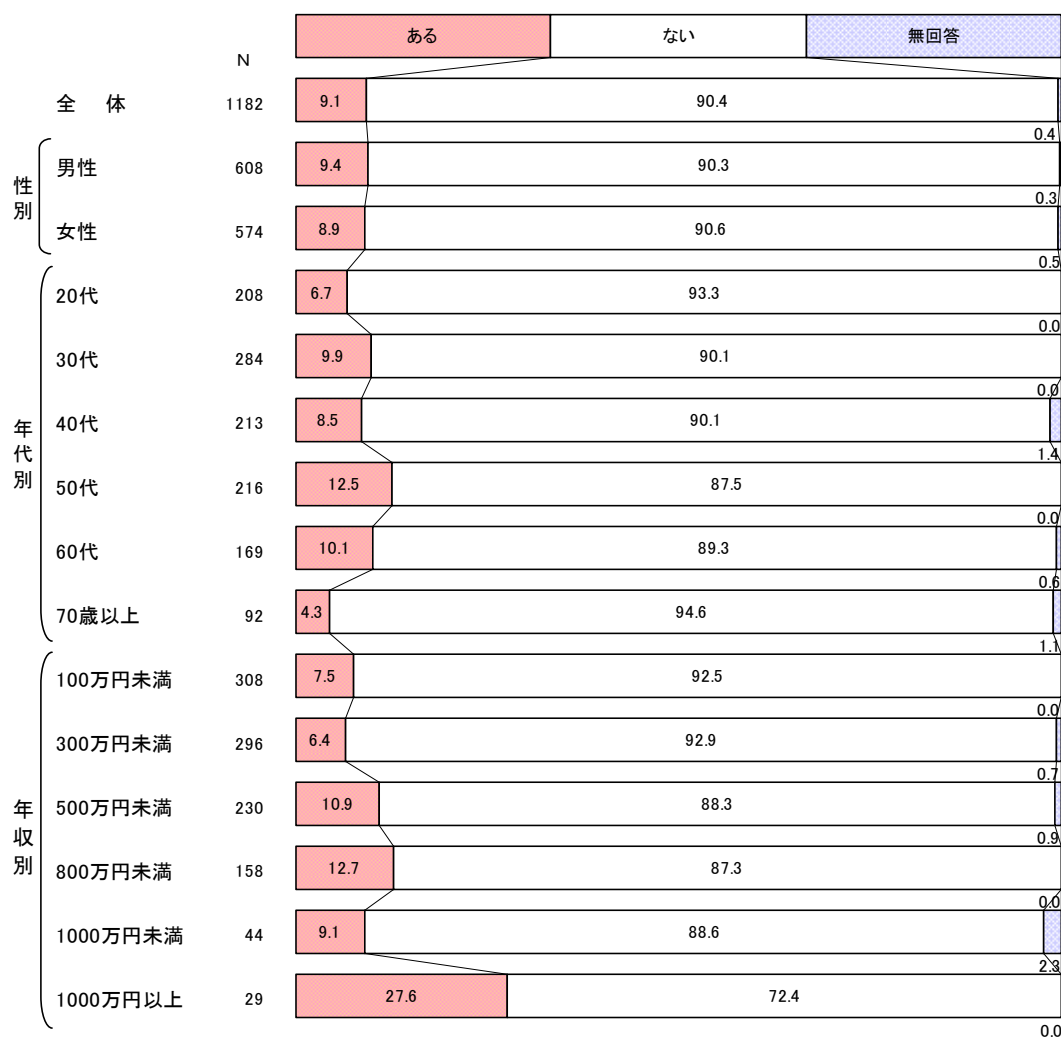
年収別では、購入意向率は“300万円以上 800万円未満”の層でやや高い。またN数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、1000万円以上の層では27.6%と高くなっている。

【投資信託の購入意向(単数回答)／時系列－投資信託認知者・保有未経験層ベース】



【投資信託の購入意向(単数回答)／対象者属性別－投資信託認知者・保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の非購入理由

投資信託保有未経験者の投資信託非購入理由は、「投資信託がよくわからないので不安」が67.1%で特に高い。次いで「元本保証がない」が35.4%と高く、「少額では購入しづらい」(19.0%)、「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」(15.9%)の順となっている。

前回調査と比べても、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、購入意向層、非購入意向層とも「投資信託がよくわからないので不安」が最大理由であるが、その割合を比べると非購入意向層の方が高い。また、購入意向層は非購入意向層に比べ「元本保証がない」「少額では購入しづらい」「商品の種類が多く自分で選択できない」などを挙げる率が高くなっている。

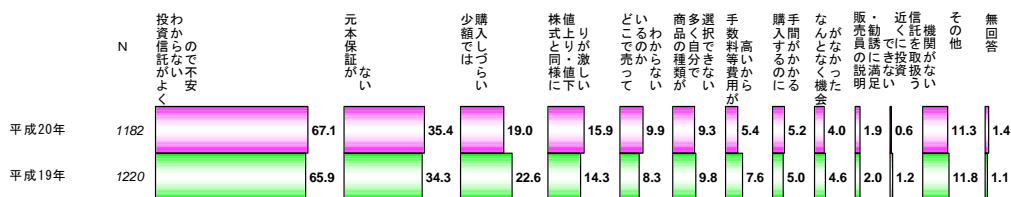
なお、保有未経験・購入意向層を対象者属性別にみると、「少額では購入しづらい」は男性の方が高いが、「投資信託がよくわからないので不安」「元本保証がない」などは女性の方が高い。

一方、非購入意向層を対象者属性別にみると、性別では、「投資信託がよくわからないので不安」は女性で高い。

年代別については、「投資信託がよくわからないので不安」は年代が下がるにつれ比較的高くなっていく傾向がみられる。また「元本保証がない」や「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」は50代を中心に緩やかな山型の分布がみられ、「どこで売っているのかわからない」は20～30代で高い。

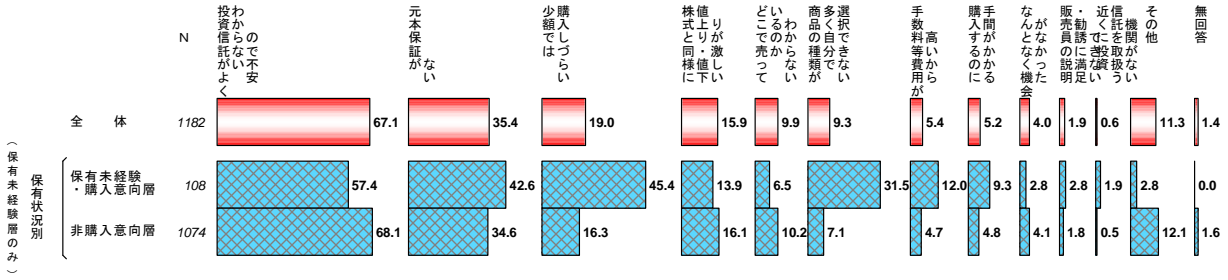
年収別では、「投資信託がよくわからないので不安」は“800万円以上”層では低い。

【投資信託の非購入理由(重複回答)／時系列－投資信託認知者・保有未経験層ベース】



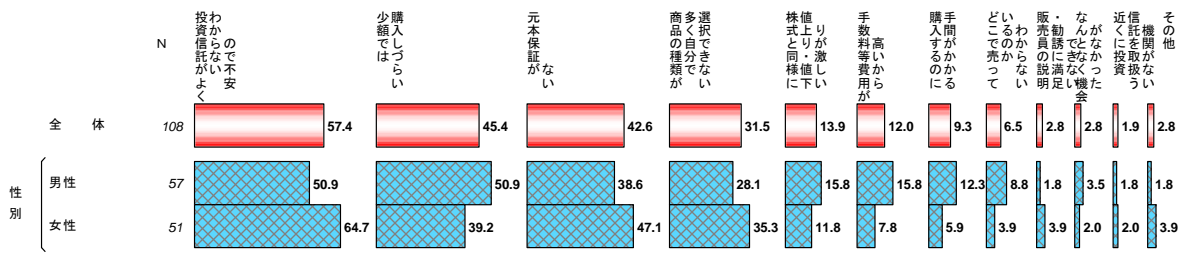
【投資信託の非購入理由(重複回答)】

／投資信託購入意向別－投資信託認知者・保有未経験層ベース



(保有状況別)

【投資信託の非購入理由(重複回答)】／対象者属性別－保有未経験・購入意向層ベース



【投資信託の非購入理由(重複回答)】／対象者属性別－非購入意向層ベース

※ N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

